

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成29年1月1日  
(第57期) 至 平成29年12月31日

**日本フェンオール株式会社**

東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号

(E02020)

第57期（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

# 有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用して、平成30年3月30日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書の添付書類は含まれておりませんが、監査報告書は末尾に綴じ込んでおります。

**日本フェンオール株式会社**

東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号

# 目次

	頁
表紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1. 主要な経営指標等の推移	2
2. 沿革	4
3. 事業の内容	6
4. 関係会社の状況	7
5. 従業員の状況	7
第2 事業の状況	9
1. 業績等の概要	9
2. 生産、受注及び販売の状況	11
3. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	12
4. 事業等のリスク	13
5. 経営上の重要な契約等	14
6. 研究開発活動	15
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	16
第3 設備の状況	17
1. 設備投資等の概要	17
2. 主要な設備の状況	18
3. 設備の新設、除却等の計画	19
第4 提出会社の状況	20
1. 株式等の状況	20
(1) 株式の総数等	20
(2) 新株予約権等の状況	20
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	20
(4) ライツプランの内容	20
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	20
(6) 所有者別状況	20
(7) 大株主の状況	21
(8) 議決権の状況	22
(9) ストックオプション制度の内容	22
2. 自己株式の取得等の状況	23
3. 配当政策	24
4. 株価の推移	24
5. 役員の状況	25
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	27
第5 経理の状況	34
1. 連結財務諸表等	35
(1) 連結財務諸表	35
(2) その他	66
2. 財務諸表等	67
(1) 財務諸表	67
(2) 主な資産及び負債の内容	81
(3) その他	81
第6 提出会社の株式事務の概要	82
第7 提出会社の参考情報	83
1. 提出会社の親会社等の情報	83
2. その他の参考情報	83
第二部 提出会社の保証会社等の情報	84

## [監査報告書]

平成29年12月連結会計年度

平成29年12月会計年度

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年3月30日
【事業年度】	第57期（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）
【会社名】	日本フェンオール株式会社
【英訳名】	Fenwal Controls of Japan, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田原 仁志
【本店の所在の場所】	東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号
【電話番号】	(03)3237—3561(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理統括部長 中野 誉将
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号
【電話番号】	(03)3237—3561(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理統括部長 中野 誉将
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成25年12月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月
売上高 (千円)	19,070,354	19,696,024	20,126,015	16,566,926	14,307,548
経常利益 (千円)	1,379,368	1,597,589	1,823,023	1,550,376	1,476,444
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	874,262	1,009,970	1,158,190	1,073,281	1,128,740
包括利益 (千円)	1,216,123	1,436,561	1,307,449	1,096,745	1,420,336
純資産額 (千円)	7,315,552	8,517,209	9,521,640	10,311,964	11,425,802
総資産額 (千円)	15,026,821	16,330,132	16,607,729	16,368,785	17,605,446
1株当たり純資産額 (円)	1,241.45	1,445.38	1,615.83	1,749.95	1,938.99
1株当たり当期純利益金額 (円)	148.36	171.39	196.55	182.14	191.55
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	48.7	52.2	57.3	63.0	64.9
自己資本利益率 (%)	12.0	12.8	12.8	10.8	10.4
株価収益率 (倍)	9.03	8.51	7.73	7.35	8.61
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	380,722	281,075	1,850,742	1,523,921	1,332,828
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△100,800	△600,748	△277,073	△305,871	△63,228
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△467,962	△422,171	△572,348	△341,975	△363,062
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	3,674,521	3,007,392	4,002,588	4,851,002	5,714,157
従業員数 (人)	233 (37)	226 (39)	226 (39)	218 (39)	195 (32)

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は就業人員であり、嘱託及び臨時従業員は( )外数で記載しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成25年12月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月
売上高 (千円)	11,028,621	11,097,415	11,107,132	10,088,795	9,635,382
経常利益 (千円)	904,337	1,129,713	1,185,341	1,193,856	1,329,267
当期純利益 (千円)	537,799	617,954	674,977	749,828	1,013,648
資本金 (千円)	996,600	996,600	996,600	996,600	996,600
発行済株式総数 (株)	5,893,000	5,893,000	5,893,000	5,893,000	5,893,000
純資産額 (千円)	6,194,062	6,782,073	7,328,349	7,941,291	8,977,064
総資産額 (千円)	11,713,490	12,075,710	12,201,580	12,236,406	13,923,843
1株当たり純資産額 (円)	1,051.13	1,150.92	1,243.63	1,347.64	1,523.43
1株当たり配当額 (円)	40.00	45.00	52.00	52.00	55.00
(内1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	91.26	104.87	114.54	127.25	172.02
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	52.9	56.2	60.1	64.9	64.5
自己資本利益率 (%)	8.7	9.5	9.6	9.8	12.0
株価収益率 (倍)	14.68	13.90	13.27	10.52	9.59
配当性向 (%)	43.8	42.9	45.4	40.9	32.0
従業員数 (人)	213 (34)	210 (35)	210 (35)	203 (35)	182 (29)

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 第53期の1株当たり配当額には、特別配当10円が含まれております。

3 第54期の1株当たり配当額には、特別配当15円が含まれております。

4 第55期の1株当たり配当額には、東京証券取引所市場第二部上場記念配当5円が含まれております。

5 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

6 従業員数は就業人員であり、嘱託及び臨時従業員は( )外数で記載しております。

## 2 【沿革】

年月	事項
昭和36年 5月	米国Fenwal Inc.（以下「米国フェンオール社」と記す）製品の国産化による各種制御装置及び火災探知装置の製造及び販売を目的として、米国フェンオール社・三井物産㈱・日本電熱㈱の三社の出資により、日本フェンオール㈱（資本金8,000千円 額面金額500円）を東京都港区芝田村町に設立
昭和37年 7月	長野県南安曇郡豊科町の日本電熱㈱長野工場内に当社長野工場を設置
昭和41年 2月	大阪市西区に大阪営業所を設置
昭和42年 4月	名古屋市中村区に名古屋出張所（現中部営業所）を設置
昭和43年 1月	長野県南安曇郡豊科町に長野工場を移転
昭和46年 9月	東京都八王子市に技術・管理センターとして、八王子センター（現八王子事業所）を設置
昭和48年 4月	東京都港区に家庭用防災機器の製造・販売を目的として、子会社日本エス・エス・ピー㈱を設立
8月	東京都新宿区で防災設備全般のメンテナンスを主たる業務とする、オートマチック工業㈱の株式37.5%（昭和49年3月子会社化、平成7年7月吸収合併）を取得
昭和50年12月	一般建設業（消防施設工事業）の建設大臣許可を受ける
昭和52年 8月	福岡市博多区に福岡出張所（現九州営業所）を設置
昭和56年10月	医療用具製造業の厚生大臣許可を受ける
昭和57年 3月	医療分野への進出のため、定款の一部を変更し、事業目的に“医療用具の設計・製造及び販売”を追加
昭和57年 4月	TQC（全社品質管理）導入
昭和58年 4月	長野県南安曇郡豊科町の長野工場内に信越営業所を設置
5月	長野県南安曇郡梓川村にプリント基板実装組立専用工場として梓川工場を設置
昭和59年 5月	長野工場が富士ゼロックス㈱殿の品質認定工場となる
昭和62年 2月	長野県南安曇郡梓川村にプリント基板実装組立の自動化を目的として梓川第二工場を設置
昭和63年 5月	米国フェンオール社の親会社であるWalter Kidde & Co., incと技術協力を維持しつつ、株式62%すべてを買取
10月	東京都荒川区に防災設備の施工管理を担当する子会社フェンオール・システム㈱を設立
平成元年 2月	各種制御機器装置の製造・販売を業務とする㈱エフ・アイ・ティの全株式を取得（平成5年11月解散）
3月	OA機器分野への進出のため、定款の一部を変更し、事業目的に“オフィスオートメーション機器及び通信機器の設計・製造及び販売”を追加
3月	宮城県仙台市に東北営業所を設置
平成2年 9月	医療用機器分野の拡大と設計・製造・販売の一体化のため、子会社日本エス・エス・ピー㈱を吸収合併
平成6年 4月	本店を東京都千代田区飯田橋に移転
5月	子会社オートマチック工業㈱が子会社フェンオール・システム㈱を吸収合併し、商号をフェンオールアネシス㈱に変更
平成7年 1月	長野県東筑摩郡波田町に波田工場を設置（平成10年9月閉鎖）
7月	防災分野での一貫したサービスの提供と経営効率の改善のため、子会社フェンオールアネシス㈱を吸収合併
7月	上記合併により東京都豊島区に大塚分室を設置
7月	上記合併により横浜市中区に横浜営業所を設置
平成8年 6月	日本証券業協会に株式を店頭登録
8月	梓川工場（PWB A部門）が㈱日本品質保証機構より、ISO 9002適合の認定を受ける
平成9年 4月	長野工場（既存）の敷地内に新たに工場を増設し、梓川工場及び梓川第二工場のPWB A部門を移管し、長野工場として統合
5月	大塚分室を東京都千代田区へ分室として移転
10月	神奈川県横浜市に防消火設備の企画、設計、施工、監理業務及びコンサルタント業務を目的として、子会社防消火エンジニアリング㈱を設立

年月	事項
平成10年 1月	愛知県豊田市御幸本町にトヨタ営業所を設置
2月	長野工場（サーマル部門、メディカル部門）がISO 9002適合の認定を受ける
3月	八王子センター（現八王子事業所）の敷地内に、実験及びデモンストレーション用の技術開発実験棟を新設
平成11年 4月	大阪営業所を大阪市西区に移転
平成12年 4月	東京都八王子市に八王子サテライトオフィスを開設
5月	長野工場、八王子センター（現八王子事業所）〔火災報知設備／消火設備、温度制御機器、サーモカップル（半導体製造装置センサー、熱板）〕が財日本品質保証機構より、ISO 9001適合の認定を受ける
平成14年 3月	東京都中央区に設備工事・保守点検を主な事業とする、フェンオール設備㈱を設立
3月	分室を東京都中央区に移転
平成15年 2月	子会社消防火エンジニアリング㈱の株式1,360株全て売却
8月	長野県南安曇郡梓川村に安曇野R&Dセンターを設置
12月	長野工場、八王子事業所のほか各営業所を登録範囲に加え、財日本品質保証機構よりISO 9001 : 2000品質マネジメントシステムへの移行の適合認定を受ける
平成16年11月	香港にプリント基板実装組立における部材調達・設計・製造・販売を目的としてFENWAL CONTROLS OF JAPAN(H.K.), LIMITED（日本芬翁（香港）有限公司）を設立
12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、新たにジャスダック証券取引所に株式を上場
平成17年 4月	名古屋営業所とトヨタ営業所を統廃合し、名古屋市天白区平針に中部営業所を新設
7月	長野工場にて(財)日本品質保証機構よりISO14001適合認定を受ける
10月	長野工場にてトヨタ生産方式を導入
12月	世界最小クラスの産業用光電式煙感知器「Fシリーズ」の発売開始
平成18年 9月	住宅用火災警報器「F12」の発売開始
平成19年 1月	住宅用火災警報器「F12」が2006年日経優秀製品・サービス賞 優秀賞 日経産業新聞賞 を受賞
5月	海外向け汎用高機能透析装置TR-FXが薬事法改正後、業界初の厚生労働省の製造承認を得る
5月	安曇野R&Dセンターを八王子事業所に統合
平成20年 3月	八王子サテライトオフィスを八王子事業所に統合
9月	住宅用火災警報器「煙雷（SF12）」の発売開始
平成21年 2月	熱式住宅用火災警報器「熱雷（SF22）」の発売開始
10月	SSR内蔵温度コントローラー「DGシリーズ」の発売開始
平成22年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場
平成23年10月	深圳にFENWAL CONTROLS OF JAPAN(H.K.), LIMITED（日本芬翁（香港）有限公司）の事務処理代行を目的としてFENWAL CONSULTING(SHENZHEN)CO., LIMITED(深圳芬翁信息咨询有限公司)を設立
12月	高感度吸引式煙検知システム「SAS(Suction Alarm System)」の発売開始
平成25年 7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場
平成27年11月	世界初の耐圧防爆型の光電式スポット型煙感知器（FLS-02E）の発売開始
12月	東京証券取引所市場第二部に市場変更
平成28年11月	大阪営業所を大阪市中央区に移転
平成29年 5月	分室を東京都千代田区に移転



### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社3社で構成されており、熱のコントロールを基礎技術として、火災警報システム、消火システム、高性能防災システム、半導体製造装置用熱板、人工腎臓透析装置、プリント基板の実装組立等の分野において製品の開発、システムの販売・設計・工事・メンテナンス等を主な事業活動としております。

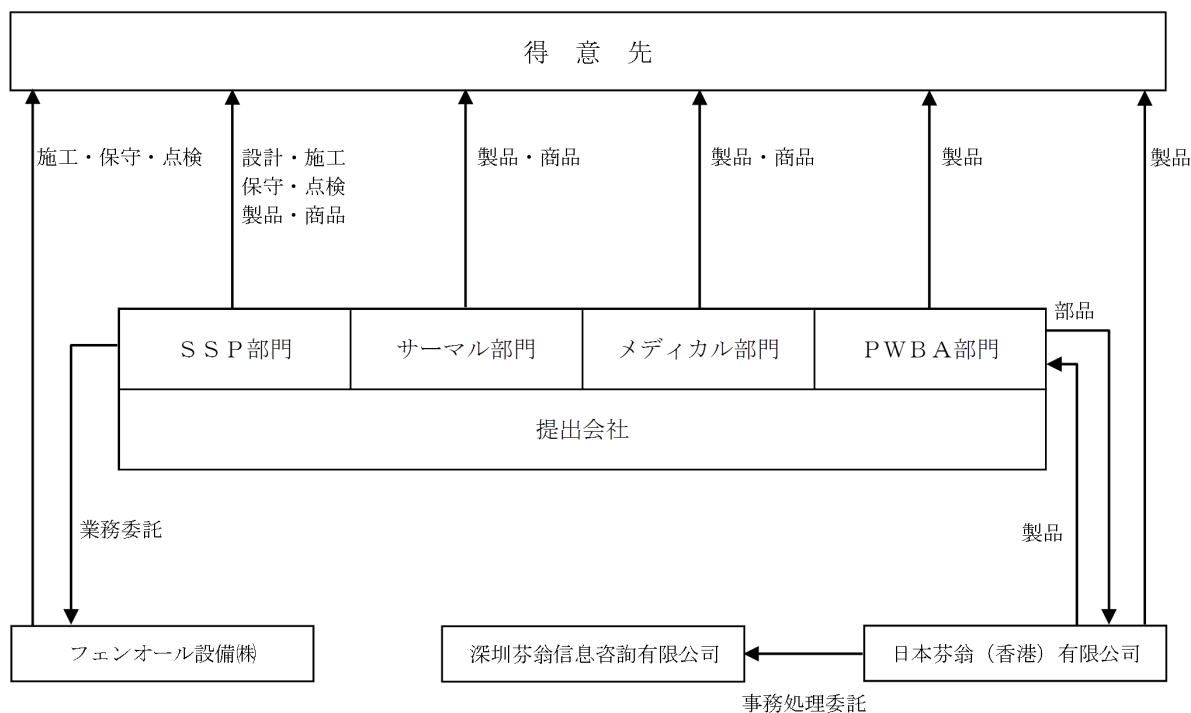
当社グループの事業に係わる位置づけ及びセグメントとの関連は次のとおりであります。

なお、次の4部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

事業区分	事業内容及び取引関係	会社名
防消火事業 (SSP部門)	住宅用火災警報器、火災警報システム、消火システム、爆発抑制システム、高感度煙検知(SAS)システム、過熱警報システム等の機器の開発・製造・販売及び同システムの設計・施工・保守及びエンジニアリングサービス	当社 フェンオール設備㈱※
温度制御事業 (サーマル部門)	温度調節器、半導体製造装置用熱板及び装置、高温炉用熱電対、その他温度制御機器等の開発・製造・販売及び同システムの設計・サービス	当社
医療事業 (メディカル部門)	人工腎臓透析装置及び医療機器の開発・設計・製造・サービス	当社
プリント基板事業 (PWBA部門)	アートワーク設計、ノイズ(EMC)対策、プリント基板実装組立	当社 FENWAL CONTROLS OF JAPAN(H.K.), LIMITED (日本芬翁(香港)有限公司)※ FENWAL CONSULTING (SHENZHEN) CO., LIMITED (深圳芬翁信息咨询有限公司) ※

※フェンオール設備㈱及びFENWAL CONTROLS OF JAPAN(H.K.), LIMITED(日本芬翁(香港)有限公司)並びにFENWAL CONSULTING(SHENZHEN) CO., LIMITED(深圳芬翁信息咨询有限公司)は当社の連結子会社であります。

事業の系統図は次のとおりであります。



#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) フェンオール設備株 (注) 2	東京都 千代田区	55,000	防火事業 (SSP部門)	100.0	当社から設備工事及び 保守点検業務を委託し ております。 役員の兼任あり。
FENWAL CONTROLS OF JAPAN (H. K.), LIMITED(日本芬翁 (香港)有限公司)	香港	1,075 (HK\$80,000)	プリント 基板事業 (PWBA部門)	100.0	当社から一部部品の購 入を行っております。 債務保証あり。
FENWAL CONSULTING (SHEN ZHEN) CO., LIMITED (深圳 芬翁信息咨询有限公司)	中華人民 共和国 (深圳市)	7,725 (US\$100,000)	プリント 基板事業 (PWBA部門)	100.0	FENWAL CONTROLS OF JAPAN (H. K.), LIMITED (日本芬翁(香港)有限公 司)の事務代行業務を行 っております。 役員の兼任あり。

(注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 フェンオール設備株式会社は平成29年5月1日付で東京都中央区から東京都千代田区へ移転しております。

3 上記の子会社は、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社ではありません。

4 FENWAL CONTROLS OF JAPAN(H. K.), LIMITED(日本芬翁(香港)有限公司)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	4,840,951千円
	(2) 経常利益	210,484千円
	(3) 当期純利益	176,621千円
	(4) 純資産額	2,401,381千円
	(5) 総資産額	3,572,740千円

#### 5 【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成29年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
SSP部門	93 (11)
サーマル部門	25 (6)
メディカル部門	22 (3)
PWBA部門	34 (7)
報告セグメント計	174 (27)
全社(共通)	21 (5)
合計	195 (32)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、嘱託及び臨時従業員は( )外数で記載しております。

2 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成29年12月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
182（29）	45.62	16.63年	5,905,566

セグメントの名称	従業員数（人）
S S P 部門	80（8）
サーマル部門	25（6）
メディカル部門	22（3）
P W B A 部門	34（7）
報告セグメント計	161（24）
全社（共通）	21（5）
合計	182（29）

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、嘱託及び臨時従業員は（ ）外数で記載しております。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、ポピュリズムの台頭による政治リスクとともに、中東や北朝鮮情勢などの地政学リスクを背景とした先行きの不透明感が続くものの、米国の金融引き締め政策等により物価の安定が図られるなど、景気は堅調に推移いたしました。

また、日本経済におきましては、株価の上昇や為替の安定化にも支えられて企業収益が改善し、失業率は2%台の低水準を記録するなど、景気拡大期は戦後2番目の長さとなる一方、賃金の伸びは鈍く、低インフレ状態となっていることなどにより実感なき景気回復が続きました。

このような事業環境の下、当社グループにおきましては、平成29-31年度中期3ヶ年計画の初年度にあたり「安心を創造し人と社会をつなぐ企業を目指す」をビジョンに掲げ、事業間連携の強化や人材育成の推進による組織の改革等、経営基盤の強化と企業価値の向上を図ってまいりました。また、生産拠点である長野工場におきましては、SSP製品等における生産場所の一元化を行い生産の効率化を進めたほか、来期に向けて新たな生産管理システムの導入準備を進めるなど、更なる抜本的な構造改革に取り組んでまいりました。

しかしながら、PWBA部門における事業環境が依然として厳しく、受注高は14,853百万円(前期比4.0%減)、売上高は14,307百万円(前期比13.6%減)となりました。

利益面におきましては、売上総利益の減少等により営業利益は1,403百万円(前期比6.6%減)、経常利益は1,476百万円(前期比4.8%減)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、経常利益の減少、特別退職金の計上はあったものの、投資有価証券売却益の計上、法人税等の減少により1,128百万円(前期比5.2%増)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### SSP (Safety Security Protection) 部門

当該部門を取り巻く事業環境につきましては、企業収益の改善や半導体需要の好調さから企業の設備投資は増加し、また、建設工事についても首都圏の再開発事業や公共事業の増加などを背景に堅調に推移いたしました。

このような環境の下、電力等基幹産業向け防災設備の受注環境が順調に推移したほか、企業の安全に対する意識が高まっていることで産業用検知器や特殊防災設備の需要は増加となりましたが、労働需給の逼迫により人手不足が常態化し一部で工期の遅延が発生したほか、原価率が上昇するなど厳しい環境が続きました。

以上の結果、受注高は5,625百万円(前期比28.7%増)、売上高は5,247百万円(前期比3.0%減)となりました。

#### サーマル部門

当該部門の主要取引先の多くが属する半導体業界は、次世代半導体への投資やIoT技術の普及等により活況を呈しており、半導体製造装置の需要についても順調に推移いたしました。当社グループにおきましては、依然として厳しい価格競争が続くセンサーについては出荷が減少となったものの、得意先のアジア市場向け設備投資に伴って熱板や熱制御機器の出荷が増加したほか、熱制御技術を応用した加熱装置の出荷が増加いたしました。

以上の結果、受注高は1,315百万円(前期比8.0%増)、売上高は1,262百万円(前期比7.0%増)となりました。

#### メディカル部門

当該部門における主力製品である海外向け人工腎臓透析装置に関しましては出荷価格引き下げ等が奏功し、人工腎臓透析装置本体の出荷台数は前期を上回りました。しかしながら、同装置の部品販売については販売先における生産調整により大幅な減少となり、また、人工腎臓透析装置以外の医療機器の販売も振るわず、受注高は1,517百万円(前期比11.4%増)、売上高は1,406百万円(前期比3.9%減)となりました。

#### PWBA (Printed Wiring Board Assembly) 部門

当該部門におきましては、アジア市場を中心とした産業機器、医療機器向けプリント基板の出荷は順調に推移した一方、主要取引先である事務機器業界における複写機、プリンターの販売需要が伸び悩んでいることから、当社グループにおけるプリント基板の出荷は大幅に減少いたしました。

以上の結果、受注高は6,393百万円(前期比24.9%減)、売上高は6,390百万円(前期比24.9%減)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ、863百万円増加し、5,714百万円となりました。

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フローの状況)

当連結会計年度の営業活動によって得られた資金は1,332百万円(前期比191百万円減)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益1,596百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フローの状況)

当連結会計年度の投資活動の結果使用した資金は63百万円(前期比242百万円減)となりました。これは主に有価証券及び投資有価証券の取得による支出205百万円、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入184百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フローの状況)

当連結会計年度の財務活動の結果使用した資金は363百万円(前期比21百万円増)となりました。これは主に配当金の支払額305百万円によるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高（千円）	前年同期比（％）
S S P 部門	841,053	124.9
サーマル部門	1,158,288	104.5
メディカル部門	1,266,728	97.1
P W B A 部門	6,313,860	74.7
合計	9,579,930	83.0
備考	(S S P 部門) 上記生産実績の外、防災設備工事の施工高は下記のとおりであります。	
	4,808,126	102.6

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3 S S P 部門の生産高には、防災設備工事で使用する機器も含まれております。  
 4 防災設備工事の施工高は、当期完成工事高＋次期繰越施工高－前期繰越施工高を記載しております。  
 5 繰越施工高は、未成工事支出金より推定したものであります。

### (2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高（千円）	前年同期比（％）	受注残高（千円）	前年同期比（％）
S S P 部門	5,625,558	128.7	2,788,705	115.7
サーマル部門	1,315,834	108.0	202,273	135.4
メディカル部門	1,517,787	111.4	311,507	155.7
P W B A 部門	6,393,991	75.1	183,683	101.9
合計	14,853,172	96.0	3,486,170	118.6

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 2 S S P 部門には、完成工事高も含まれております。

### (3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高（千円）	前年同期比（％）
S S P 部門	5,247,753	97.0
サーマル部門	1,262,910	107.0
メディカル部門	1,406,352	96.1
P W B A 部門	6,390,531	75.1
合計	14,307,548	86.4

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2 S S P 部門には、完成工事高も含まれております。  
3 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高（千円）	割合（％）	販売高（千円）	割合（％）
Fuji Xerox of Shenzhen Ltd.	4,360,570	26.3	2,833,392	19.8

### 3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「安全・安心」をキーワードに卓越した「熱の制御技術」を核としてお客様により優れた製品を提供することにより社会に貢献できるメーカーを目指しております。また、お客様に信頼される高い技術力に裏打ちされた製品の開発・製造・販売を通して、取引先・株主及び社員の満足度を高めると同時に、収益力の高い企業を目指しております。そして、社会の一員として法令を遵守し倫理性の高い企業活動を実践してまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは利益拡大に全力を傾注し、収益力の強化を図り、ROEの目標値を12%以上としております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは4つの事業部門から構成されております。自社ブランド品ビジネスとしてSSP部門とサーマル部門は、当社のコア技術である「熱の制御技術」を用いた自社開発製品を市場に投入することにより、売上と利益の拡大を図り、グループ内でのシェアを高めてまいります。メディカル部門とPWBA部門は、親密な取引先とのパートナーシップをより一層強めると共に、新たなパートナーを模索し、ビジネスの拡大を図ってまいります。

#### (4) 経営戦略の現状と見通し

世界経済は緩和的な金融環境にあることから、供給された通貨が株式や不動産等に流入し各種経済指標を押し上げるなど景気は底堅く推移しております。今後、地政学リスク等の不安要素はあるものの、米国では減税政策により景気は順調に推移すると予想され、日本におきましても株高、高水準な企業収益等に支えられ景気は回復基調が持続すると予想されます。

このような事業環境の下、当社グループにおきましては、引き続きPWBA部門において厳しい環境が予想されますが、他の部門でカバーし、売上高13,625百万円、営業利益1,604百万円、経常利益1,663百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1,165百万円の実現に向けて取り組んでまいります。

セグメントごとの見通しは次のとおりであります。

SSP部門では、電力等基幹産業向け防災設備のほか産業用検知器や特殊防災設備の受注環境は引き続き順調に推移すると予想されます。これらに加えて一般物件の消火設備工事の営業体制を強化するほか、原価率の改善等を行い増収・増益を見込んでおります。

サーマル部門では、主力製品である半導体製造装置用センサー及び熱板等のもとより、生産性向上を目的とした装置全体を視野に入れた営業活動を積極的に展開することにより増収・増益を見込んでおります。

メディカル部門では、主力製品である海外向け人工腎臓透析装置の出荷は当連結会計年度と同水準で推移すると予想され、これに加え、更なる原価低減活動を推進するほか、新製品の販売等により増収・増益を見込んでおります。

PWBA部門では、OA機器の厳しい販売環境の下、当社グループにおいては更なる減収を見込んでおります。この減少幅を最小限にとどめるべく、品質改善活動の強化等により顧客からの信頼を高めるとともに、引き続き原価低減活動を推進し、業務の効率化を図ってまいります。

#### (5) 会社の対処すべき課題

今後の市場環境は、好調な世界景気や日本企業の業績拡大を背景に、堅調に推移するものと予想される一方、朝鮮半島情勢や中東情勢の緊迫化などによる地政学リスクの高まりや、米国の政策運営の停滞などによる世界経済の下振れリスクが懸念されております。

このような事業環境のなか、当社グループにおきましては、将来にわたる持続的な成長の実現に向け、各事業分野における課題に対して着実に取り組んでまいります。

SSP部門におきましては、社会の防災意識が高まるなか、産業用煙検知器Fシリーズや耐圧式防爆型煙感知器等の拡販に注力するとともに、新たな市場への展開を踏まえた営業強化と更なる新製品の開発に取り組んでまいります。また、引き続き電力等基幹産業向け特殊防災設備等が堅調に推移するものと思われることから、施工管理体制の強化も図ってまいります。

サーマル部門におきましては、主要取引先である半導体製造装置メーカーの生産動向に柔軟に対応するため、センサー、熱板、温度制御機器など、製品の部材調達から加工、装置組立までの製造工程を見直すなど、生産能力の向上を図ってまいります。

メディカル部門におきましては、主力の海外向け人工腎臓透析装置の受注と生産量を確保するための生産体制の構築と、技術・製造・販売の各部門が一体となった原価低減活動に取り組んでまいります。また、引き続き国内向けに新たな医療機器の開発及び生産にも注力してまいります。

PWBA部門におきましては、主要な販売先である事務機器業界の低迷により生産量が大幅に減少するなか、業務の統合やプロセス改善により生産性を高めるなど、原価低減を図ってまいります。また、国内外の新規顧客を開拓するため、ビジネスパートナーのネットワークを活用するなど、営業活動を強化してまいります。

生産拠点である長野工場におきましては、製造における業務プロセスや工程の見直しのほか、新生産管理システムの導入による作業効率の改善などにより、国内生産拠点としての競争力を高めてまいります。

これからも、差別化された高付加価値製品を通じて安心・安全な社会の実現を目指すとともに、収益力を高め強固な経営基盤を築くことで、企業価値の向上を図ってまいります。

## 4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状況等に影響を及ぼす可能性があるリスクは以下のとおりと考えております。

なお、以下の将来におけるリスクは当連結会計年度末現在で当社が判断したものであります。

### (1) 政治・経済情勢

当社のサーマル事業（温度制御事業）は、取扱製品の都合上、液晶産業・半導体産業をはじめとする国内の景気動向、とりわけ設備投資の動向に影響されます。また、メディカル事業におきましても腎臓透析患者に対する国の医療政策に影響されることは避けられません。

PWBA部門におきましては、香港現地法人である日本芬翁（香港）有限公司と中国現地法人である深圳芬翁信息咨询有限公司の業績は中国の政治・経済状況、とりわけ外国為替政策・税制制度の見直し動向等によっては大きな影響を受ける可能性があります。

### (2) 主要取引先の事業動向

当社のメディカル事業及びPWBA事業は限定された取引先との繋がりが強く、その取引先の経営戦略・事業動向が当社グループの経営成績及び財政状況に影響を与える恐れがあります。

なお、平成29年12月期における上記主要取引先に対する売上高構成比は、メディカル事業では東レ・メディカル㈱が90%、PWBA事業では富士ゼロックスグループが70%となっております。



(3) 為替レートの変動リスク

香港現地法人である日本芬翁（香港）有限公司と当社との取引は主に米ドル建てで行っております。その結果、売買取引時及び代金決済時における為替リスクが存在します。

なお、日本芬翁（香港）有限公司における売買行為は主に米ドル建てで行っておりますので、それ以外における為替市場の変動リスクは僅少なものと認識しております。

(4) 投資有価証券に係るリスク

当社グループは、投資有価証券を保有しておりますが、株式相場の著しい変動により評価損が発生した場合に、経営成績及び財政状態に悪影響を与える可能性があります。

また、株価下落は、その他有価証券評価差額金を減少させることにより、純資産の減少を引き起こす可能性があります。

(5) 製造物責任

当社グループは、取扱製品の品質維持に努めておりますが、製品の欠陥又は当社の瑕疵によって第三者に被害を与えるリスクが存在します。その場合、当社グループに相応の責任があると認定された場合、当社グループの事業継続、財政状況及び経営状況に多大な影響を与える可能性があります。

(6) 法的規制及び変更

当社の取扱製品は消防法及び医薬品医療機器等法による法的規制を受けており、法的規制の動向又は変更によっては、生産及び販売活動を阻害するリスクが存在します。

(7) 事業展開を行う地域での社会的な混乱等

当社は事業を展開するうえで、以下の潜在的なリスクを抱えております。

- ・ 地震又は風水害等の天変地異に起因する自然リスク
- ・ 戦争、テロ、犯罪に起因する社会リスク
- ・ サイバー攻撃、情報システム障害に起因する業務リスク

(8) 海外子会社のリスク

当社グループの海外活動は、中国を中心に展開しております。従って、中国国内の政治・経済状況の急変、雇用慣行の違い等から派生する諸問題が想定されます。また、現地に進出している競合相手との競争の結果、当社グループが損失を被る可能性も存在します。

そのため、海外での事業展開が、当社グループの経営成績及び財政状況に好成績を与えることを保証するものではありません。

## 5 【経営上の重要な契約等】

(提出会社)

当社は、下記のとおり製造等に関する契約を締結しております。

提携先	契約内容	備考	契約期間
富士ゼロックス㈱	ゼログラフィー機械部品製造契約 複写機関連機器の製造に関する基本契約	—————	昭和46年6月29日から 昭和47年6月28日まで 以降1年ごとの自動更新
東レ・メディカル㈱	透析装置等の製造に関する基本契約 人工腎臓透析装置等の製造、開発に関する基本契約	—————	平成14年11月20日から 平成15年11月19日まで 以降1年ごとの自動更新

なお、上記以外に当連結会計年度において経営上の重要な契約等はありません。

## 6 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動は下記基本方針を掲げ、SSP、サーマル、メディカルそれぞれの部門における製品に関わる開発や各種製品の品質・信頼性の改善並びに生産性向上を図るための開発を実施しております。PWBA部門に関しましては現在の事業環境に対応するため、平成29年4月1日付で研究開発部門を廃止いたしました。

なお、当連結会計年度においても、フェンオール設備(株)及びFENWAL CONTROLS OF JAPAN(H. K.), LIMITED(日本芬翁(香港)有限公司)並びにFENWAL CONSULTING(SHENZHEN) CO., LIMITED(深圳芬翁信息咨询有限公司)は研究開発活動を行っておりませんので、以下、当社(提出会社)におけるその活動状況について言及しております。

### 研究開発活動基本方針

- 1 熱のコントロールを目的とした、高付加価値で創造的な製品とシステムの開発
- 2 ソフトウェア及びエレクトロニクス技術をベースにした機器制御に関する顧客満足度の高い製品の研究開発とその応用
- 3 自社のコア・テクノロジーと外部の優れた技術の組み合わせによる複合的な技術の創出

当連結会計年度における各セグメント別の研究開発活動の経過及び成果は次のとおりであり、当連結会計年度における研究開発費の総額は375百万円であります。

### SSP (Safety Security Protection) 部門

SSP部門では、火災警報設備の市場動向を踏まえ、煙感知器の小型化及び様々な設置環境への対応、海外への販売展開に向けた規格取得に取り組んだほか、制御盤及び受信機の基本性能の向上、通信に悪影響を与えるノイズに関する研究を進めてまいりました。

当連結会計年度における研究開発費は209百万円であります。

### サーマル部門

サーマル部門では、半導体製造装置用熱板の開発に注力し、省エネ対策に向けたヒーターの基礎研究に取り組んだほか、中温域で使用する熱板を改良し、平成29年9月より販売を開始いたしました。

当連結会計年度における研究開発費は72百万円であります。

### メディカル部門

メディカル部門では、生体情報モニターの医療機器認証に向け引き続き調査・研究に取り組んだほか、医用血圧計については最新規格への対応を行い、医薬品医療機器等法の一部変更申請を完了しました。

当連結会計年度における研究開発費は88百万円であります。

### PWBA部門(Printed Wiring Board Assembly)部門

PWBA部門では、モジュール向け極小基板への高密度実装技術の研究をしてまいりましたが、現在の事業環境に対応するため、平成29年4月1日付でPWBA部門の研究開発部門を廃止いたしました。

当連結会計年度における研究開発費は4百万円であります。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、当社グループが採用している重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載のとおりであります。また、この連結財務諸表の作成にあたっては、過去の実績や状況に応じ合理的と考えられる様々な要因に基づき見積り及び判断を行っておりますが、不確実性あるいはリスクが内在しているため、将来生じる実際の結果と異なる可能性があります。

### (2) 財政状態

#### (資産の状況)

当連結会計年度末の資産合計は、17,605百万円となり、前連結会計年度末16,368百万円に比べ1,236百万円(7.6%)増加しております。主な増加要因は、「現金及び預金」863百万円(17.8%)、「投資有価証券」653百万円(32.1%)、「電子記録債権」348百万円(43.6%)によるものであり、主な減少要因は、「受取手形及び売掛金」658百万円(21.7%)によるものであります。

#### (負債の状況)

当連結会計年度末の負債合計は、6,179百万円となり、前連結会計年度末6,056百万円に比べ122百万円(2.0%)増加しております。主な増加要因は、「社債」268百万円(394.1%)、固定負債の「繰延税金負債」169百万円(74.7%)によるものであり、主な減少要因は、「1年内償還予定の社債」352百万円(91.7%)によるものであります。

#### (純資産の状況)

当連結会計年度末の純資産合計は、11,425百万円となり、前連結会計年度末10,311百万円に比べ1,113百万円(10.8%)増加しております。主な増加要因は、親会社株主に帰属する当期純利益1,128百万円によるものであります。

#### (キャッシュ・フローの状況)

キャッシュ・フローの状況は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

### (3) 経営成績

経営成績の分析につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載のとおりであります。

### (4) 経営成績に重要な影響を与える要因

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」をご参照ください。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資額は、有形固定資産で124,367千円、無形固定資産で148,164千円となっております。有形固定資産につきましては、製品の製造及び製造拠点の改装を目的としたものがその多くを占めております。無形固定資産につきましては、主に在庫管理システム及び情報管理を目的としたインフラの構築に投資しております。

セグメントごとの投資額は、以下のとおりであります。

セグメントの名称	投資額（千円）	
	有形固定資産	無形固定資産（ソフトウェア）
S S P 部門	44,779	21,114
サーマル部門	14,991	—
メディカル部門	15,499	—
P W B A 部門	20,156	330
本社その他	28,940	126,720
合計	124,367	148,164

## 2【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (東京都千代田区)	S S P 部門 サーマル部門 全社	販売・ 管理設備	4,516	0	—	8,848	4,642	18,008	31 (4)
八王子事業所 (東京都八王子市)	S S P 部門 サーマル部門 メディカル部門 P W B A 部門 全社	研究開発 設備	111,829	17,627	136,005 (18,720)	6,609	16,607	288,679	39 (5)
長野工場 (長野県安曇野市)	S S P 部門 サーマル部門 メディカル部門 P W B A 部門 全社	生産設備	460,957	167,888	218,118 (15,310)	—	36,635	883,599	75 (17)
大阪営業所 (大阪府大阪市中央 区) 他7営業所	S S P 部門 サーマル部門	販売設備	7,295	—	—	—	1,636	8,931	37 (3)

(注) 1. 上記提出会社には、国内子会社からの出向者5名がありますが、国内子会社の従業員数に含めて表示しております。

2. 上記設備のほか、本社ビル及び営業所は第三者から賃借しているものです。

### (2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
フェンオール設 備株式会社	本社 (東京都 千代田区)	S S P 部門	販売・ 管理設備	41	—	—	—	1,131	1,173	13 (3)

(注) 1. 上記国内子会社には、当社(提出会社)からの出向者3名がありますが、当社(提出会社)の従業員数に含めて表示しております。

2. 上記設備のほか、本社ビルは第三者から賃借しているものです。

3. 本社は、平成29年5月1日より東京都中央区から東京都千代田区へ移転しております。

### (3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
FENWAL CONTROLS OF JAPAN (H. K.), LIMITED (日本芬 翁(香港)有限公司)	本社 (香港)	P W B A 部門	販売・ 管理 設備	—	—	—	—	148	148	— (—)
FENWAL CONSULTING (SHEN ZHEN) CO., LIMITED (深圳 芬翁信息咨询有限公司)	本社 (中国深 圳市) 無錫事務 所(中国 無錫市)	P W B A 部門	販売・ 管理 設備	—	804	—	775	534	2,115	— (—)

(注) 1. 上記在外子会社のうちFENWAL CONTROLS OF JAPAN(H. K.), LIMITED (日本芬翁(香港)有限公司)には、当社(提出会社)からの出向者3名がありますが、当社(提出会社)の従業員数に含めて表示しております。

2. 上記設備のほか、FENWAL CONTROLS OF JAPAN(H. K.), LIMITED (日本芬翁(香港)有限公司)の本社、FENWAL CONSULTING (SHENZHEN) CO., LIMITED (深圳芬翁信息咨询有限公司)の本社及び無錫事務所は第三者から賃借しているものです。

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。  
 2 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品の合計額であります。なお、金額に消費税等は含んでおりません。  
 3 従業員数の( )は嘱託及び臨時従業員数を外書しております。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設等

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定していますが、計画策定に当たっては経営会議において提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設計画は次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
当社 長野工場	長野県 安曇野市	P W B A 部門	生産管理 システム	179	143	自己資金	平成28年 11月	平成30年 1月	(注2)

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 完成後の増加能力につきましては、合理的な算定が困難なため、記載しておりません。

#### (2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等に該当する事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	20,713,000
計	20,713,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数（株） （平成29年12月31日）	提出日現在発行数（株） （平成30年3月30日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,893,000	5,893,000	東京証券取引所 市場第二部	完全議決権株式 であり、権利内 容に限定のない 当社における標 準の株式 100株を1単元の 株式とする
計	5,893,000	5,893,000	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （株）	発行済株式 総数残高 （株）	資本金増減額 （千円）	資本金残高 （千円）	資本準備金 増減額 （千円）	資本準備金 残高 （千円）
平成11年3月31日	△25,000	5,893,000	—	996,600	—	1,460,517

(注) 上記発行済株式の減少は、「株式の消却の手續に関する商法の特例に関する法律」第3条第1項の規定に基づき、利益による株式消却を行なったことによるものであります。

#### (6)【所有者別状況】

平成29年12月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満 株式の状況 （株）
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	13	23	57	29	3	2,787	2,912	—
所有株式数 （単元）	—	13,087	1,320	16,786	9,456	10	18,256	58,915	1,500
所有株式数 の割合（%）	—	22.21	2.24	28.49	16.05	0.02	30.99	100.00	—

(注) 自己株式332株は、「個人その他」に3単元及び「単元未満株式の状況」に32株を含めて記載しております。

## (7) 【大株主の状況】

平成29年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
KBL EPB S.A. 107704 (常任代理人：株式会社みずほ銀行決済営業部)	43 BOULEVARD ROYAL L-2955 LUXEMBOURG (東京都港区港南2丁目15番1号品川インターシティA棟)	581	9.87
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	294	4.99
株式会社八十二銀行 (常任代理人：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	長野県長野市大字中御所字岡田178番地8 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	290	4.92
西華産業株式会社	東京都千代田区丸の内3丁目3番1号	250	4.24
新日本空調株式会社	東京都中央区日本橋浜町2丁目31番1号	228	3.88
三井住友信託銀行株式会社 (常任代理人：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 (東京都中央区晴海1丁目8番11号)	210	3.56
株式会社吉田ディベロプメント	東京都世田谷区岡本3丁目10番12号	201	3.41
東レ・メディカル株式会社	東京都中央区日本橋本町2丁目4番1号	200	3.39
株式会社ヨコオ	東京都北区滝野川7丁目5番11号	192	3.26
HSBC BANK PLC A/C MARATHON FUSION JAPAN PARTNERSHIP LP (常任代理人：香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	8 CANADA SQUARE, LONDON E14 5HQ (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	184	3.12
計	—	2,631	44.66

(注) 1. 平成29年5月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、三井住友アセットマネジメント株式会社及びその共同保有者である株式会社三井住友銀行が平成29年5月15日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、株式会社三井住友銀行を除いて上記大株主の状況には含めておりません。なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
三井住友アセットマネジメント株式会社	東京都港区愛宕二丁目5番1号 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階	26	0.44
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	294	4.99

2. 平成29年12月18日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、SAMARANG UCITSが平成29年10月27日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
SAMARANG UCITS	11A AVENUE MONTEREY L-2163 LUXEMBOURG	581	9.87



## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 300	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 5,891,200	58,912	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 1,500	—	—
発行済株式総数	5,893,000	—	—
総株主の議決権	—	58,912	—

(注) 「単元未満株式」の「株式数(株)」の欄には当社所有の自己株式32株が含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本フェンオール株式会社	東京都千代田区飯田橋 一丁目5番10号	300	—	300	0.00
合計	—	300	—	300	0.00

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	56	76,720
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	332	—	332	—

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成30年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成30年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主に対する継続的で安定的な利益還元を経営上の重要政策に位置づけており、企業体質の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保を考慮し、可能な範囲で積極的な利益還元を実施していく方針であります。

当社は、年1回期末配当として剰余金の配当を行うことを基本方針としております。この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の期末配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり55円の配当を実施することを決定いたしました。

内部留保金につきましては、将来にわたる株主利益を確保し、企業体質の一層の強化を図るための投資に活用する予定であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、基準日が当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの配当額 (円)
平成30年3月29日 定時株主総会決議	324	55

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	平成25年12月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月
最高(円)	1,445	1,796	1,779	1,514	1,749
最低(円)	679	1,101	1,269	1,114	1,292

(注) 最高・最低株価は、平成25年7月15日以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日から平成27年12月6日までは東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成27年12月7日以降は東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	1,552	1,576	1,649	1,720	1,749	1,745
最低(円)	1,489	1,463	1,453	1,616	1,579	1,602

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

## 5 【役員の状況】

男性7名 女性1名 (役員のうち女性の比率12.5%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	会長	井口 雅雄	昭和23年4月11日	昭和44年9月 当社入社 平成8年4月 大阪営業所長 平成14年10月 S S P 営業本部長 平成15年3月 常務取締役就任 平成15年8月 代表取締役社長 平成18年3月 S S P 統括部長 平成19年3月 フェンオール設備(株)代表取締役社長 平成23年3月 S S P 営業統括部長 平成25年3月 フェンオール設備(株)取締役(現任) 平成27年3月 代表取締役会長(現任)	平成30年3月29日開催の定時株主総会から1年	38
代表取締役	社長 兼 S S P 営業統括部長	田原 仁志	昭和32年1月26日	昭和54年4月 清水建設(株)入社 平成18年4月 同社建築事業本部第二営業本部営業部長 平成24年4月 同社建築事業本部第一営業本部営業部長 平成27年7月 当社入社 平成27年10月 S S P 営業統括部 副統括部長 平成27年10月 S S P 営業統括部長(現任) 平成28年3月 取締役就任 平成28年9月 常務取締役 平成29年3月 代表取締役社長(現任) 平成29年3月 フェンオール設備(株)代表取締役社長(現任)	平成30年3月29日開催の定時株主総会から1年	11
取締役	長野工場長 兼 サーマル営業統括部長 兼 メディカル統括部長	阿部 眞琴	昭和22年8月28日	昭和45年4月 当社入社 平成19年4月 技術統括部サーマル技術部長 平成21年4月 サーマル統括部長 平成27年3月 執行役員メディカル統括部長 平成28年3月 サーマル営業統括部長(現任) 平成29年3月 取締役就任(現任) 平成29年3月 長野工場長(現任) 兼 メディカル統括部長(現任)	平成30年3月29日開催の定時株主総会から1年	2
取締役		上村 真一郎	昭和46年11月13日	平成7年4月 三井物産(株)入社 平成10年4月 弁護士登録(第一東京弁護士会) 桃尾・松尾・難波法律事務所 入所 平成14年5月 ニューヨーク大学ロースクール L L . M . 修了 平成15年3月 アメリカ合衆国ニューヨーク州 弁護士登録 平成18年1月 桃尾・松尾・難波法律事務所 パートナー(現任) 平成27年3月 当社取締役就任(現任)	平成30年3月29日開催の定時株主総会から1年	-
取締役		野口 真有美	昭和43年9月3日	平成3年4月 (株)三菱銀行(現(株)三菱東京UFJ銀行)入行 平成5年2月 シティバンク、エヌ・エイ在日法人入社 平成10年10月 朝日監査法人(現有限責任あずさ監査法人)入社 平成20年4月 野口公認会計士事務所 所長(現任) 平成24年11月 野口真有美税理士事務所 所長(現任) 平成26年11月 (株)Phone Appli 監査役(現任) 平成27年4月 独立行政法人国立公文書館 監事(現任) 平成30年3月 当社取締役就任(現任)	平成30年3月29日開催の定時株主総会から1年	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)	
常勤 監査役		古川 純一	昭和31年4月28日	昭和55年4月 昭和60年5月 平成14年1月 平成22年1月 平成25年11月 平成26年3月 平成26年10月 平成28年6月	ゼネラルエアコン(株)(現GAC (株)入社 当社入社 長野工場 工場管理グループリー ダー 長野工場 副工場長 内部監査室室長 フェンオール設備(株)監査役(現 任) 深圳芬翁信息咨询有限公司監事 (現任) 監査役就任(現任)	(注) 4	0	
監査役		佐々木 二郎	昭和27年11月14日	昭和51年4月 平成16年1月 平成18年5月 平成23年6月 平成27年3月	(株)三井銀行(現(株)三井住友銀行) 入行 SMB C 抵当証券(株)企画部長 室町ビルサービス(株)取締役管理 本部企画部長 同社常務執行役員 当社監査役就任(現任)	平成27年3月 27日開催の定 時株主総会か ら4年	-	
監査役		尾崎 雅一	昭和38年8月17日	昭和61年4月 平成16年4月 平成24年4月 平成26年4月 平成29年3月	西華産業(株)入社 同社大阪支店 プラント環境部 第二課長 同社大阪営業第一本部 プラント ・環境部長 同社経営企画本部 企画部長(現 任) 兼 内部監査室長(現任) 当社監査役就任(現任)	平成30年3月 29日開催の定 時株主総会か ら4年	-	
計								52

- (注) 1. 取締役 上村真一郎及び野口真有美は、社外取締役であります。
2. 監査役 佐々木二郎及び尾崎雅一は、社外監査役であります。
3. 上村真一郎、野口真有美及び佐々木二郎を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
4. 平成28年6月17日開催の臨時株主総会の終結の時から平成30年12月期に係る定時株主総会の終結の時までであります。
5. 当社は執行役員制度を導入しており、提出日現在の取締役以外の執行役員は5名で、技術統括部長 鈴木和夫、長野工場副工場長 中畑悟、PWBA統括部長兼PWBA営業部長 和田英一、管理統括部長兼総務部長 中野誉将、SSP営業統括部副統括部長兼東京SSP第一営業部長 古谷野光夫で構成されております。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、コーポレート・ガバナンスの重要性を認識し「経営理念」にも「法令を遵守し倫理性の高い企業活動を通して、透明性のある企業を目指す」旨を明記し、取り組み姿勢を明確にしております。

これは、業務遂行に当たり社長を含む全役職員がすべての社内外の関係者と公平・公正な取引を心がけ、積極的な情報開示により透明性を高めることで実現できると考えております。

これからも、社員への教育・啓蒙を継続的に実施し、全社に一層浸透させるように不断の努力を続けてまいります。

#### ① 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

##### イ 企業統治の体制

###### (取締役会制度)

取締役会は社外取締役2名を含む5名で構成されております(本書提出日現在)。開催は1ヶ月に1回の定例会合と特別に別途開く必要が生じた場合の臨時会合で運用されております。取締役会では経営方針その他経営に関する重要事項を決定する場として、業務執行状況を監督する機関として活用しております。

###### (監査役会制度)

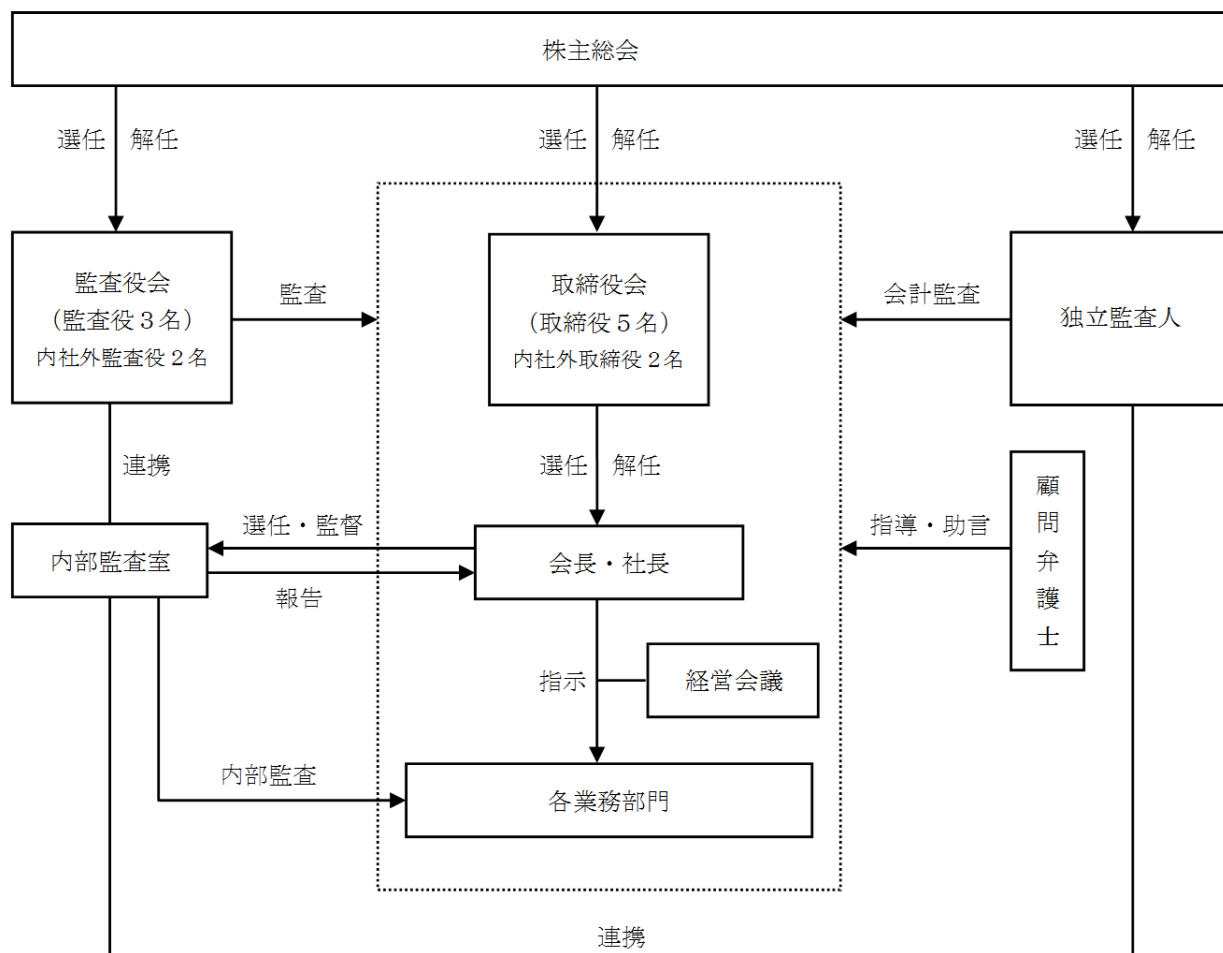
監査役会は社外監査役2名を含む3名で構成されております(本書提出日現在)。取締役会等の重要な会議への出席を含め経営の適正な監視を行っております。代表取締役を含め経営幹部及び監査法人とも定例的に意見交換を行うと共に社内各部署とも連携・協調し、問題の早期顕在化に努めるなど現場レベルでの監査機能も強化しております。

###### (経営会議)

取締役、執行役員及び経営幹部で構成される経営会議を月1回定期的に開催する他、案件内容と緊急性に応じて非定期的にも開催するなど臨機応変に運用しております。経営会議は日常業務の意思決定と情報共有の場としております。同会議の討議内容は各参加者を通じて社員にフィードバックしております。

なお、常勤監査役も毎回出席しております。

##### ロ 会社の機関の内容



#### ハ 当該企業統治を採用する理由

当該企業統治の体制を採用する理由は「的確かつ迅速な意思決定」、「業務の執行状況の監督」、「コンプライアンス強化」及び「経営の中立的かつ客観的な監視」を確保することが可能な体制であると考えられています。

#### ニ その他の企業統治に関する事項

##### a 内部統制システムの整備の状況

当社では、グループ全体にわたる適正な業務の遂行を確保するために、内部統制システムの充実や強化が重要であると認識しております。内部統制につきましては、内部監査室が当社及びグループ全体の内部監査を実施し、その結果を取締役に対して報告する体制を整えております。また、業務の適正性や透明性を確保し、コンプライアンスを徹底することでより高い企業倫理の確立に向けて努力しております。

##### b リスク管理体制の整備の状況

当社のコンプライアンスに対する考え方を「日本フェンオール株式会社役職員行動規範」として明文化し、全社員に配布すると共に、その厳正な運用を確保するために顧問弁護士への匿名による通報窓口を設けております。

##### c 提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

子会社の業務については、内部統制を有効に機能させるために定めた「子会社管理規程」に基づき、重要事項については当社の経営会議での承認を求めるなど子会社の適切な経営管理を行っております。また、当社の内部監査室が定期的に子会社の監査を実施しております。

#### ② 内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査は、内部監査室（1名）が監査役と相互連携し、会計監査及びそれに付随する業務監査を対象として実施しております。

また、監査役は会計監査人と会計監査に関する状況について意見交換及び情報交換を行うことにより、相互連携の強化を図りながら効率的な監査を実施しております。

内部統制部門との関係につきましては、監査役及び会計監査人がそれぞれの監査にあたり必要に応じて、内部監査室より内部統制の状況について適宜情報の聴取を行う等の連携を図っております。

なお、監査役 佐々木二郎氏は、金融機関での勤務と企業経営に関する豊富な知識、経験から財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

#### ③ 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士、補助者の状況は以下のとおりであります。

（業務を執行した公認会計士の氏名及び所属する監査法人名）

指定有限責任社員 業務執行社員 神代 勲 （有限責任監査法人トーマツ）

指定有限責任社員 業務執行社員 鈴木 健夫 （有限責任監査法人トーマツ）

（会計監査業務に係る補助者の構成）

公認会計士 1名

その他 12名

なお、有限責任監査法人トーマツは平成30年3月29日開催の第57回定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任し、新たな会計監査人として監査法人A&Aパートナーズが同定時株主総会において選任されております。

#### ④ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役 上村真一郎氏は、桃尾・松尾・難波法律事務所に属しており、当社は同事務所と法律顧問契約を締結し法律顧問料を支払っておりますが、その金額は同法律事務所の規模に対して小額であります。

社外取締役 野口真有美氏は、野口公認会計士事務所所長、野口真有美税理士事務所所長、(株)Phone Appliの監査役及び独立行政法人国立公文書館の監事を兼職しておりますが、当社と当該各社の間に特別な利害関係はありません。

社外監査役 佐々木二郎氏は、室町ビルサービス株式会社の常務執行役員を務めておりました。当社は同社との間に保守点検の受注等の取引関係を有しております。

社外監査役 尾崎雅一氏は、西華産業株式会社の経営企画本部企画部長兼内部監査室長を兼務しております。同社は当社の議決権を4.24%保有する大株主であり、当社は同社との間に工事の受注等の取引関係を有しております。

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては専門的な見地から経営の適法性を判断できる人材から選任しております。

社外取締役は、企業法務又は会計・税務に係る豊富な知見と高い法令遵守の精神を有しており、取締役会において客観的・中立的な立場からの確かな助言・提言を行うことにより、経営の意思決定機能及び監視機能を強化する役割を担っております。

社外監査役は、高い独立性及び豊富な経験や高い見識に基づいた中立的な監査、監督を行うことで経営の監視という重要な機能及び役割を果たし、当社の企業統治体制の強化に寄与しているものと考えております。

⑤ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会において内部監査、監査役監査及び会計監査人の活動状況について報告を受け、独立した立場から必要に応じて当社の経営に対する有益な発言を行うなど、取締役の業務執行状況の監督強化に努めております。

社外監査役は、監査役会において常勤監査役と十分な意見交換を行っております。また、内部監査、会計監査及び内部統制の実施状況等について常勤監査役を通じて報告を受けるとともに、独立した立場から意見を述べ、監査の実効性確保に努めております。

⑥ 役員報酬の内容

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役除く)	93,977	68,100	—	16,665	9,212	6
監査役 (社外監査役除く)	15,250	13,800	—	—	1,450	1
社外役員	7,750	6,600	—	—	1,150	2

(注) 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

ロ 役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

ニ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役及び監査役の報酬については、株主総会の決議により、その限度額を決定しております。

取締役の報酬は、月額基本報酬及び賞与により構成されております。

月額基本報酬は、各取締役の役位に応じて決定され、賞与は、業績をベースに各職務における貢献度等を勘案し決定いたします。

監査役の報酬は月額基本報酬のみとし、各監査役の報酬額は監査役の協議により決定いたします。

なお、取締役及び監査役の退任時に、その役位、在任期間、功労等に応じて株主総会の決議に基づき退職慰労金を支給しております。



⑦ 株式の保有状況

イ 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

銘柄数 23銘柄

貸借対照表計上額の合計額 2,278,396千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ニフコ	81,000	499,770	企業間取引の維持強化
新日本空調(株)	337,500	426,937	企業間取引の維持強化
西華産業(株)	640,000	218,240	企業間取引の維持強化
(株)ヨコオ	200,700	193,274	企業間取引の維持強化
(株)協和日成	130,000	80,080	企業間取引の維持強化
理研計器(株)	45,000	75,465	企業間取引の維持強化
(株)八十二銀行	108,000	73,224	企業間取引の維持強化
(株)丹青社	72,150	57,864	企業間取引の維持強化
(株)ユーシン	60,700	46,435	企業間取引の維持強化
日成ビルド工業(株)	60,667.99	32,214	企業間取引の維持強化
フジ日本精糖(株)	48,000	24,192	企業間取引の維持強化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	3,830	17,081	企業間取引の維持強化
相鉄ホールディングス(株)	26,339.64	15,197	企業間取引の維持強化
(株)チノー	12,000	13,128	企業間取引の維持強化
セントラル警備保障(株)	6,037	12,665	企業間取引の維持強化
第一生命ホールディングス(株)	4,300	8,367	企業間取引の維持強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,830	7,799	企業間取引の維持強化
(株)ハマイ	7,968.55	7,713	企業間取引の維持強化
丸文(株)	7,920	5,433	企業間取引の維持強化
椿本興業(株)	11,000	3,696	企業間取引の維持強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	750	3,137	企業間取引の維持強化
新光商事(株)	2,000	2,482	企業間取引の維持強化

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
新日本空調㈱	337,500	504,225	企業間取引の維持強化
㈱ニフコ	54,000	415,260	企業間取引の維持強化
西華産業㈱	128,000	389,120	企業間取引の維持強化
㈱ヨコオ	200,700	321,722	企業間取引の維持強化
理研計器㈱	45,000	116,865	企業間取引の維持強化
㈱協和日成	130,000	116,350	企業間取引の維持強化
㈱丹青社	72,150	91,702	企業間取引の維持強化
㈱八十二銀行	108,000	69,876	企業間取引の維持強化
日成ビルド工業㈱	31,717.66	46,815	企業間取引の維持強化
㈱ユーシン	60,700	46,314	企業間取引の維持強化
フジ日本精糖㈱	48,000	34,272	企業間取引の維持強化
㈱チノー	12,000	20,460	企業間取引の維持強化
㈱三井住友フィナンシャルグループ	3,830	18,644	企業間取引の維持強化
セントラル警備保障㈱	6,037	15,835	企業間取引の維持強化
相鉄ホールディングス㈱	5,267	15,595	企業間取引の維持強化
㈱ハマイ	8,693.10	11,083	企業間取引の維持強化
第一生命ホールディングス㈱	4,300	9,993	企業間取引の維持強化
丸文㈱	7,920	9,171	企業間取引の維持強化
㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,830	8,949	企業間取引の維持強化
椿本興業㈱	2,200	6,540	企業間取引の維持強化
新光商事㈱	2,000	4,246	企業間取引の維持強化
三井住友トラスト・ホールディングス㈱	750	3,354	企業間取引の維持強化

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

ニ 投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの状況

該当事項はありません。

⑧ 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。

なお、当該限定責任が認められるのは、当該社外取締役又は社外監査役が責任原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

⑨ 取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨定款に定めております。

⑩ 取締役の選任決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。

⑪ 取締役会の決議方法

取締役会の決議は、議決に加わることができる取締役の過半数が出席し、その出席した取締役の過半数をもって行う旨定款に定めております。

なお、当社は、会社法第370条の要件を充たしたときは、取締役会の決議があったものとみなす旨定款に定めております。

⑫ 剰余金の配当の決定機関

当社は、剰余金の配当について、株主総会の決議によりこれを定めております。

⑬ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑭ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

イ 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするためであります。

ロ 取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役の責任免除について、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であったものを含む。）及び監査役（監査役であったものを含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において取締役会の決議によって免除することができる旨を定款で定めております。これは、取締役及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

ハ 中間配当の決定機関

当社は、取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主の皆様への機動的な利益還元を行うことを目的としております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	29,000	—	31,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	29,000	—	31,000	—

② 【その他重要な報酬の内容】

（前連結会計年度）

当社の連結子会社のうち海外子会社2社につきましては、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているDeloitte Touche Tohmatsuに対して監査報酬等を支払っております。

（当連結会計年度）

当社の連結子会社のうち海外子会社2社につきましては、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているDeloitte Touche Tohmatsuに対して監査報酬等を支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

（前連結会計年度）

該当事項はありません。

（当連結会計年度）

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針を明確に定めておりませんが、事前に見積書の提示を受け、監査計画、監査日数及び当社の規模、業務の特性等を総合的に勘案し、監査法人と協議のうえ決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年1月1日から平成29年12月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年1月1日から平成29年12月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、監査法人等が主催するセミナーへの参加や会計専門誌の定期購読等により、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更に ついて的確に対応することができる体制を整えております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,851,002	5,714,157
受取手形及び売掛金	※2 3,030,864	※2 2,372,022
電子記録債権	※2 798,648	※2 1,147,102
完成工事未収入金	883,683	904,010
製品	425,588	303,036
仕掛品	174,112	230,461
原材料	1,534,565	1,503,289
未成工事支出金	529,058	601,554
繰延税金資産	—	901
その他	87,541	79,441
貸倒引当金	△5,317	△3,899
流動資産合計	12,309,747	12,852,079
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※1 598,890	※1 584,639
機械装置及び運搬具（純額）	※1 215,740	※1 186,320
土地	354,124	354,124
リース資産（純額）	※1 12,895	※1 8,276
建設仮勘定	19,149	24,010
その他（純額）	※1 55,717	※1 61,336
有形固定資産合計	1,256,517	1,218,708
無形固定資産		
ソフトウェア	31,999	44,579
ソフトウェア仮勘定	—	122,496
リース資産	16,304	7,957
その他	7,771	7,601
無形固定資産合計	56,075	182,636
投資その他の資産		
長期預金	500,000	500,000
投資有価証券	2,033,420	2,686,849
繰延税金資産	5,000	3,912
その他	233,891	185,548
貸倒引当金	△25,867	△24,287
投資その他の資産合計	2,746,445	3,352,022
固定資産合計	4,059,038	4,753,366
資産合計	16,368,785	17,605,446

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※2 2,817,804	※2 2,828,284
工事未払金	515,385	510,823
短期借入金	228,139	267,800
1年内償還予定の社債	384,500	32,000
1年内返済予定の長期借入金	100,000	100,000
リース債務	13,282	10,519
未払法人税等	203,936	258,767
未成工事受入金	223,699	223,731
繰延税金負債	69,803	55,364
その他	335,428	403,333
流動負債合計	4,891,978	4,690,624
固定負債		
社債	68,000	336,000
長期借入金	300,000	300,000
リース債務	17,822	6,844
退職給付に係る負債	442,578	357,161
役員退職慰労引当金	85,141	67,787
資産除去債務	23,852	23,852
繰延税金負債	227,447	397,372
固定負債合計	1,164,842	1,489,018
負債合計	6,056,821	6,179,643
純資産の部		
株主資本		
資本金	996,600	996,600
資本剰余金	1,460,517	1,460,517
利益剰余金	6,786,972	7,609,291
自己株式	△212	△289
株主資本合計	9,243,876	10,066,119
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	826,863	1,155,486
為替換算調整勘定	320,209	248,814
退職給付に係る調整累計額	△78,985	△44,618
その他の包括利益累計額合計	1,068,087	1,359,683
純資産合計	10,311,964	11,425,802
負債純資産合計	16,368,785	17,605,446

## ②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
売上高	16,566,926	14,307,548
売上原価	12,997,792	10,866,661
売上総利益	3,569,133	3,440,886
販売費及び一般管理費	※1, ※2 2,066,343	※1, ※2 2,037,250
営業利益	1,502,789	1,403,636
営業外収益		
受取利息	726	12,552
受取配当金	36,389	48,570
受取保険金	—	9,600
保険配当金	14,575	3,999
保険解約返戻金	904	13,592
立退料収入	18,408	—
その他	3,680	2,608
営業外収益合計	74,685	90,924
営業外費用		
支払利息	13,823	10,390
社債発行費	1,409	3,474
為替差損	9,809	2,545
その他	2,056	1,705
営業外費用合計	27,098	18,116
経常利益	1,550,376	1,476,444
特別利益		
投資有価証券売却益	—	160,280
特別利益合計	—	160,280
特別損失		
特別退職金	—	40,693
特別損失合計	—	40,693
税金等調整前当期純利益	1,550,376	1,596,030
法人税、住民税及び事業税	496,566	471,788
法人税等調整額	△19,470	△4,497
法人税等合計	477,095	467,290
当期純利益	1,073,281	1,128,740
親会社株主に帰属する当期純利益	1,073,281	1,128,740



## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
当期純利益	1,073,281	1,128,740
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	169,535	328,623
為替換算調整勘定	△83,878	△71,394
退職給付に係る調整額	△62,192	34,367
その他の包括利益合計	※1 23,464	※1 291,595
包括利益	1,096,745	1,420,336
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,096,745	1,420,336

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	996,600	1,460,517	6,020,112	△212	8,477,017
当期変動額					
剰余金の配当			△306,421		△306,421
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,073,281		1,073,281
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	766,859	－	766,859
当期末残高	996,600	1,460,517	6,786,972	△212	9,243,876

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	657,328	404,087	△16,792	1,044,622	9,521,640
当期変動額					
剰余金の配当					△306,421
親会社株主に帰属する 当期純利益					1,073,281
自己株式の取得					
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	169,535	△83,878	△62,192	23,464	23,464
当期変動額合計	169,535	△83,878	△62,192	23,464	790,323
当期末残高	826,863	320,209	△78,985	1,068,087	10,311,964

当連結会計年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	996,600	1,460,517	6,786,972	△212	9,243,876
当期変動額					
剰余金の配当			△306,421		△306,421
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,128,740		1,128,740
自己株式の取得				△76	△76
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	822,319	△76	822,242
当期末残高	996,600	1,460,517	7,609,291	△289	10,066,119

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	826,863	320,209	△78,985	1,068,087	10,311,964
当期変動額					
剰余金の配当					△306,421
親会社株主に帰属する 当期純利益					1,128,740
自己株式の取得					△76
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	328,623	△71,394	34,367	291,595	291,595
当期変動額合計	328,623	△71,394	34,367	291,595	1,113,838
当期末残高	1,155,486	248,814	△44,618	1,359,683	11,425,802

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,550,376	1,596,030
減価償却費	166,808	165,269
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	4,662	△2,998
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△57,535	△35,882
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△4,976	△17,354
受取利息及び受取配当金	△37,115	△61,123
支払利息	13,823	10,390
社債発行費	1,409	3,474
為替差損益 (△は益)	△3,880	△535
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△160,280
保険解約返戻金	△904	△13,592
受取保険金	—	△9,600
特別退職金	—	40,693
売上債権の増減額 (△は増加)	998,845	236,963
たな卸資産の増減額 (△は増加)	314,236	△303
仕入債務の増減額 (△は減少)	△608,067	53,161
未払金の増減額 (△は減少)	△58,492	△70,040
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	△184,714	31
その他	△14,112	15,241
小計	2,080,361	1,749,547
利息及び配当金の受取額	40,699	62,521
利息の支払額	△13,944	△10,713
保険金の受取額	—	9,600
特別退職金の支払額	—	△40,693
法人税等の支払額	△583,195	△437,433
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,523,921	1,332,828
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△300	—
定期預金の払戻による収入	300	—
有形固定資産の取得による支出	△284,313	△13,954
ソフトウェアの取得による支出	△22,308	△87,462
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△209,068	△205,419
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	200,000	184,500
保険積立金の積立による支出	△24,191	△5,726
保険積立金の解約による収入	38,432	69,152
貸付けによる支出	—	△5,000
貸付金の回収による収入	1,066	788
その他	△5,487	△107
投資活動によるキャッシュ・フロー	△305,871	△63,228
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△222,060	43,805
長期借入れによる収入	200,000	100,000
長期借入金の返済による支出	—	△100,000
社債の発行による収入	98,590	296,525
社債の償還による支出	△99,000	△384,500
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△13,493	△13,763
自己株式の取得による支出	—	△76
配当金の支払額	△306,011	△305,052
財務活動によるキャッシュ・フロー	△341,975	△363,062
現金及び現金同等物に係る換算差額	△27,660	△43,382
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	848,413	863,154
現金及び現金同等物の期首残高	4,002,588	4,851,002
現金及び現金同等物の期末残高	※1 4,851,002	※1 5,714,157

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

- 1 連結の範囲に関する事項  
子会社はすべて連結されております。  
当該連結子会社は、フェンオール設備株式会社、FENWAL CONTROLS OF JAPAN(H. K.), LIMITED (日本芬翁(香港)有限公司)、FENWAL CONSULTING(SHENZHEN)CO., LIMITED (深圳芬翁信息咨询有限公司)の3社であります。
- 2 持分法の適用に関する事項  
該当事項はありません。
- 3 連結子会社の事業年度等に関する事項  
すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。
- 4 会計方針に関する事項
  - (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法
    - ① 有価証券
      - (イ)満期保有目的の債券  
償却原価法(定額法)を採用しております。
      - (ロ)その他有価証券  
時価のあるもの  
決算末日の市場価格等に基づく時価法  
但し、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算出  
時価のないもの  
総平均法による原価法
    - ② たな卸資産
      - (イ)製品・原材料  
当社及び国内連結子会社  
総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)  
在外連結子会社  
総平均法による低価法
      - (ロ)仕掛品  
当社及び国内連結子会社  
個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)  
在外連結子会社  
個別法による低価法
      - (ハ)未成工事支出金  
当社及び国内連結子会社  
個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)
    - ③ デリバティブ  
為替予約・・・時価法
  - (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
    - ① 有形固定資産(リース資産を除く)  
定率法  
但し、平成10年4月1日以降取得の建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降取得の建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。  
建物……………3年～38年  
機械装置……………6年～12年
    - ② 無形固定資産(リース資産を除く)  
定額法  
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
    - ③ リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

- (3) 繰延資産の処理方法  
社債発行費  
支払時全額費用処理
- (4) 重要な引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
  - ② 工事損失引当金  
受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末未引渡工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。
  - ③ 役員退職慰労引当金  
役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末における要支給額を計上しております。
- (5) 退職給付に係る会計処理の方法
- ① 退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
  - ② 数理計算上の差異の費用処理方法  
数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。
- (6) 重要な収益及び費用の計上基準  
完成工事高の計上基準  
当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）、その他の工事については工事完成基準によっております。
- (7) 重要なヘッジ会計の方法
- ① ヘッジ会計の方法  
金利スワップについては特例処理の要件を満たしており、特例処理を採用しております。
  - ② ヘッジ手段とヘッジ対象  
ヘッジ手段・・・金利スワップ  
ヘッジ対象・・・借入金
  - ③ ヘッジ方針  
借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。
  - ④ ヘッジ有効性評価の方法  
金利スワップの特例処理の要件を満たしておりますので、有効性の評価を省略しております。
- (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項  
消費税等の会計処理  
税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「無形固定資産」の「その他」に含めていた「ソフトウェア」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「無形固定資産」の「その他」に表示していた39,770千円は、「ソフトウェア」31,999千円、「その他」7,771千円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
	3,150,870千円	3,237,181千円

※2 連結会計年度末日満期手形及び電子記録債権

連結会計年度末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形及び電子記録債権が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
受取手形	60,948千円	40,303千円
電子記録債権	148,797千円	7,212千円
支払手形	74,910千円	71,985千円

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
給与手当	949,703千円	895,840千円
役員退職慰労引当金繰入額	14,808千円	8,558千円
退職給付費用	39,721千円	48,374千円
貸倒引当金繰入額	4,513千円	△3,003千円

※2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
	387,291千円	375,692千円

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	220,272千円	633,937千円
組替調整額	－千円	△160,280千円
税効果調整前	220,272千円	473,656千円
税効果額	△50,737千円	△145,033千円
その他有価証券評価差額金	169,535千円	328,623千円
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△83,878千円	△71,394千円
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	△87,853千円	37,916千円
組替調整額	△1,172千円	11,617千円
税効果調整前	△89,025千円	49,534千円
税効果額	26,832千円	△15,167千円
退職給付に係る調整額	△62,192千円	34,367千円
その他の包括利益合計	23,464千円	291,595千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成28年1月1日 至平成28年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	5,893,000	—	—	5,893,000
合計	5,893,000	—	—	5,893,000
自己株式				
普通株式	276	—	—	276
合計	276	—	—	276

(注) 新株予約権については、該当事項はありません。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年3月30日 定時株主総会	普通株式	306,421	52	平成27年12月31日	平成28年3月31日

(注) 1株当たり配当額(円)には、東京証券取引所市場第二部上場記念配当5円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年3月30日 定時株主総会	普通株式	306,421	利益剰余金	52	平成28年12月31日	平成29年3月31日

当連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	5,893,000	—	—	5,893,000
合計	5,893,000	—	—	5,893,000
自己株式				
普通株式	276	56	—	332
合計	276	56	—	332

(注) 1 新株予約権については、該当事項はありません。

2 自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。



2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年3月30日 定時株主総会	普通株式	306,421	52	平成28年12月31日	平成29年3月31日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年3月29日 定時株主総会	普通株式	324,096	利益剰余金	55	平成29年12月31日	平成30年3月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金勘定	4,851,002千円	5,714,157千円
現金及び現金同等物	4,851,002千円	5,714,157千円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1 リース資産の内容

(1) 有形固定資産

主としてCAD関連機器及びネットワーク機器(有形固定資産その他)であります。

(2) 無形固定資産

ソフトウェア(無形固定資産その他)であります。

2 リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループにおける資金運用については、安全性の高い金融資産を対象に運用しております。資金調達については、銀行借入又は社債発行により調達しております。デリバティブ取引については、将来の為替・金利の変動によるリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権並びに完成工事未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外子会社との取引から生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業との業務に関連する株式及び満期保有目的の債券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

長期預金は、期限前解約特約付預金（コーラブル預金）であり、当社より期限前解約を行う場合、損失が生じる可能性があります。

営業債務である支払手形及び買掛金並びに工事未払金は、その多くが120日以内の支払期日であります。また、その一部には原材料等の輸入にともなう外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されております。借入金のうち短期借入金は、主に営業取引に係る資金の調達を目的としたものであり、長期借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務（原則として5年以内）は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。なお、長期のものの一部については、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引、長期借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、先物為替予約取引は為替相場の変動によるリスクに、金利スワップ取引は市場金利の変動によるリスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、債権管理規程及び与信管理規程に従い、営業債権については、各事業部門における営業統括部が取引先ごとの期日管理及び残高管理をおこなう等の方法により管理しております。

満期保有目的の債券は、格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

当連結会計年度の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の連結貸借対照表価額により表わされております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握した為替の変動リスクに対して必要に応じて先物為替予約を利用してヘッジしております。また、当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために一部の長期借入金については、金利スワップ取引を利用しております。なお、ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定を以て有効性の評価を省略しております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理につきましては、取引開始時に稟議書に基づき個別に取引の妥当性を審査するとともに、経理部が取引の実施及び残高を確認しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各社が月次で資金繰計画を作成・更新するなどの方法により、流動性リスクを管理しております。また、当座貸越契約等による資金調達方法の確保により、流動性リスクを低減しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。

((注) 2 参照)

前連結会計年度 (平成28年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	4,851,002	4,851,002	—
(2) 受取手形及び売掛金	3,030,864	3,030,864	—
(3) 電子記録債権	798,648	798,648	—
(4) 完成工事未収入金	883,683	883,683	—
(5) 投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	207,020	205,420	△1,600
② その他有価証券	1,824,399	1,824,399	—
(6) 長期預金	500,000	498,991	△1,008
資産計	12,095,619	12,093,010	△2,609
(1) 支払手形及び買掛金	2,817,804	2,817,804	—
(2) 工事未払金	515,385	515,385	—
(3) 短期借入金	228,139	228,139	—
(4) 社債 (※1)	452,500	452,558	58
(5) 長期借入金 (※2)	400,000	400,527	527
負債計	4,413,828	4,414,415	586

(※1) 1年内償還予定の社債を含めております。

(※2) 1年内返済予定の長期借入金を含めております。

当連結会計年度（平成29年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	5,714,157	5,714,157	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,372,022	2,372,022	—
(3) 電子記録債権	1,147,102	1,147,102	—
(4) 完成工事未収入金	904,010	904,010	—
(5) 投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	408,452	404,262	△4,190
② その他有価証券	2,276,396	2,276,396	—
(6) 長期預金	500,000	500,090	90
資産計	13,322,141	13,318,041	△4,099
(1) 支払手形及び買掛金	2,828,284	2,828,284	—
(2) 工事未払金	510,823	510,823	—
(3) 短期借入金	267,800	267,800	—
(4) 社債（※1）	368,000	368,005	5
(5) 長期借入金（※2）	400,000	400,192	192
負債計	4,374,908	4,375,105	197

（※1） 1年内償還予定の社債を含めております。

（※2） 1年内返済予定の長期借入金を含めております。

（注） 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

#### 資 産

(1) 現金及び預金 (2) 受取手形及び売掛金 (3) 電子記録債権 (4) 完成工事未収入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

(6) 長期預金

長期預金の時価は、取引金融機関から提示された価格によっております。

#### 負 債

(1) 支払手形及び買掛金 (2) 工事未払金 (3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 社債

変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(5) 長期借入金

元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

なお、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

また、変動金利による長期借入金の一部は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
非上場株式	2,000	2,000

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(5)投資有価証券 ② その他有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度（平成28年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,851,002	—	—	—
受取手形及び売掛金	3,030,864	—	—	—
電子記録債権	798,648	—	—	—
完成工事未収入金	883,683	—	—	—
投資有価証券				
満期保有目的の債券	—	100,000	100,000	—
その他有価証券のうち満期 があるもの	—	—	—	—
長期預金	—	—	500,000	—

当連結会計年度（平成29年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	5,714,157	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,372,022	—	—	—
電子記録債権	1,147,102	—	—	—
完成工事未収入金	904,010	—	—	—
投資有価証券				
満期保有目的の債券	—	100,000	100,000	200,000
その他有価証券のうち満期 があるもの	—	—	—	—
長期預金	—	300,000	200,000	—

4 社債及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成28年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	228,139	—	—	—	—	—
社債	384,500	32,000	36,000	—	—	—
長期借入金	100,000	100,000	200,000	—	—	—
合計	712,639	132,000	236,000	—	—	—

当連結会計年度（平成29年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	267,800	—	—	—	—	—
社債	32,000	36,000	300,000	—	—	—
長期借入金	100,000	200,000	100,000	—	—	—
合計	399,800	236,000	400,000	—	—	—

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度 (平成28年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計 上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	—	—	—
時価が連結貸借対照表計 上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	207,020	205,420	△1,600
	(3) その他	—	—	—
	小計	207,020	205,420	△1,600
合計		207,020	205,420	△1,600

当連結会計年度 (平成29年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計 上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	—	—	—
時価が連結貸借対照表計 上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	408,452	404,262	△4,190
	(3) その他	—	—	—
	小計	408,452	404,262	△4,190
合計		408,452	404,262	△4,190



2. その他有価証券

前連結会計年度（平成28年12月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,738,047	531,000	1,207,047
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,738,047	531,000	1,207,047
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	86,352	101,610	△15,258
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	86,352	101,610	△15,258
合計		1,824,399	632,610	1,191,789

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額 2,000千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成29年12月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	2,206,520	523,135	1,683,385
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	2,206,520	523,135	1,683,385
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	69,876	87,815	△17,939
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	69,876	87,815	△17,939
合計		2,276,396	610,950	1,665,446

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額 2,000千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	184,500	160,280	—
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	184,500	160,280	—

4. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

該当事項はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

該当事項はありません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%～50%程度下落した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度（平成28年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（平成29年12月31日）

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度（平成28年12月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等 のうち1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	100,000	—	(注)
合 計			100,000	—	—

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（平成29年12月31日）

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付年金制度を採用しております。また、これとは別枠で総合設立型の企業年金制度に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算できない制度であることから、確定拠出制度と同様の会計処理をしております。

なお、従業員の退職等に際して、退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)		(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	
退職給付債務の期首残高	1,191,717	千円	1,257,010	千円
勤務費用	57,261		60,093	
利息費用	6,923		3,431	
数理計算上の差異の発生額	44,819		△6,727	
退職給付の支払額	△43,712		△101,317	
退職給付債務の期末残高	1,257,010		1,212,489	

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)		(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	
年金資産の期首残高	780,628	千円	814,431	千円
期待運用収益	44,183		39,174	
数理計算上の差異の発生額	△43,033		31,188	
事業主からの拠出額	76,365		71,850	
退職給付の支払額	△43,712		△101,317	
年金資産の期末残高	814,431		855,328	

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(平成28年12月31日)		(平成29年12月31日)	
積立型制度の退職給付債務	1,257,010	千円	1,212,489	千円
年金資産	△814,431		△855,328	
退職給付に係る負債	442,578		357,161	
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	442,578		357,161	

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)		(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	
勤務費用	57,261	千円	60,093	千円
利息費用	6,923		3,431	
期待運用収益	△44,183		△39,174	
数理計算上の差異の費用処理額	△1,172		11,617	
確定給付制度に係る退職給付費用	18,829		35,968	

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)		(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	
数理計算上の差異	89,025	千円	△49,534	千円

## (6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
未認識数理計算上の差異	113,844 千円	64,310 千円

## (7) 年金資産に関する事項

## ① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
株式	44%	44%
債券	26	27
一般勘定	28	26
その他	2	3
合 計	100	100

## ② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
割引率	0.239～0.274%	0.285～0.298%
長期期待運用収益率	5.66%	4.81%

なお、予想昇給率につきましては、平成25年5月31日を基準日として算定した年齢別昇給指数を使用しております。

## 3. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の企業年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度47,383千円、当連結会計年度42,057千円であります。

## (1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (平成28年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成29年3月31日現在)
年金資産の額	122,897,822 千円	127,443,786 千円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	152,503,499	149,315,379
差引額	△29,605,676	△21,871,592

## (2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 0.86% (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当連結会計年度 0.86% (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

## (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高（前連結会計年度21,959,157千円、当連結会計年度20,384,652千円）であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は元利均等償却であり、当社グループは、連結財務諸表上、特別掛金（前連結会計年度17,335千円、当連結会計年度15,386千円）を費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成28年1月1日 至平成28年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	17,378千円	14,822千円
貸倒引当金繰入超過額	1,640千円	1,204千円
たな卸資産除却損	—千円	1,081千円
その他	△1,890千円	1,480千円
繰延税金資産(流動)の合計	17,128千円	18,590千円
繰延税金負債(流動)との相殺額	△17,128千円	△17,688千円
繰延税金資産(流動)の純額	—千円	901千円
繰延税金負債(流動)		
海外子会社合算課税の調整項目	48,533千円	31,484千円
在外連結子会社の留保利益	38,397千円	41,569千円
繰延税金負債(流動)の合計	86,931千円	73,053千円
繰延税金資産(流動)との相殺額	△17,128千円	△17,688千円
繰延税金負債(流動)の純額	69,803千円	55,364千円
繰延税金資産(固定)		
退職給付に係る負債	135,512千円	109,359千円
貸倒引当金繰入超過額	7,920千円	7,435千円
投資有価証券評価損	107,381千円	94,439千円
会員権評価損	3,651千円	3,651千円
役員退職慰労引当金	26,070千円	20,756千円
資産除去債務	7,303千円	7,303千円
その他	389千円	443千円
繰延税金資産(固定)の小計	288,230千円	243,389千円
評価性引当額	△145,239千円	△126,595千円
繰延税金資産(固定)の合計	142,991千円	116,793千円
繰延税金負債(固定)との相殺額	△137,990千円	△112,881千円
繰延税金資産(固定)の純額	5,000千円	3,912千円
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	364,925千円	509,959千円
その他	511千円	294千円
繰延税金負債(固定)の合計	365,437千円	510,253千円
繰延税金資産(固定)との相殺額	△137,990千円	△112,881千円
繰延税金負債(固定)の純額	227,447千円	397,372千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
法定実効税率	33.10%	30.86%
(調整)		
繰延税金資産評価性引当額	0.04%	△1.18%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.12%	0.08%
住民税均等割	0.85%	0.74%
試験研究費の税額控除	△2.02%	△1.17%
受取配当金	△0.16%	△0.19%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.44%	－%
海外子会社合算課税の調整項目	△1.75%	△0.15%
在外連結子会社の留保利益	0.04%	0.20%
その他	0.11%	0.09%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.77%	29.28%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自平成28年1月1日 至平成28年12月31日)

資産除去債務の金額に重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

資産除去債務の金額に重要性が乏しいため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営会議及び取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、取扱製品・商品別にSSP部門、サーマル部門、メディカル部門、PWBA部門の4つの事業部門により構成され、それぞれが国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって当社は、「SSP部門」「サーマル部門」「メディカル部門」「PWBA部門」の4つを報告セグメントとしております。

なお、報告セグメント別の主要な製品・サービスは次のとおりであります。

報告セグメント	主要製品・サービス
SSP部門	住宅用火災警報器、火災報知設備、HFC-227ea高速消火システム、爆発抑制装置、二酸化炭素消火設備、スプリンクラー消火設備、保守点検サービス
サーマル部門	半導体製造装置用熱板、温度センサー、デジタル温度調節器、恒温恒湿槽用温度調節器
メディカル部門	人工腎臓透析装置
PWBA部門	プリント基板の実装組立

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	S S P部門	サーマル 部門	メディカル 部門	P W B A 部門	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,411,231	1,179,981	1,463,802	8,511,911	16,566,926	—	16,566,926
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	5,411,231	1,179,981	1,463,802	8,511,911	16,566,926	—	16,566,926
セグメント利益	1,169,256	210,828	114,136	522,184	2,016,406	△513,616	1,502,789
セグメント資産	3,108,085	750,556	997,954	5,571,481	10,428,077	5,940,707	16,368,785
その他の項目							
減価償却費	31,776	22,364	15,830	84,885	154,856	11,951	166,808
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	23,799	9,860	10,540	239,378	283,580	7,948	291,528

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△513,616千円は、全社費用であります。  
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
  - (2) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産5,940,707千円であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社での余裕運用資金（現金、預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。
  - (3) 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産の減価償却費であります。
  - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産分であります。
- 2 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。



当連結会計年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	S S P 部門	サーマル 部門	メディカル 部門	P W B A 部門	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,247,753	1,262,910	1,406,352	6,390,531	14,307,548	—	14,307,548
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	5,247,753	1,262,910	1,406,352	6,390,531	14,307,548	—	14,307,548
セグメント利益	1,259,799	273,035	3,761	389,988	1,926,584	△522,948	1,403,636
セグメント資産	3,409,509	880,326	1,221,874	4,977,317	10,489,028	7,116,417	17,605,446
その他の項目							
減価償却費	33,667	19,968	16,790	81,666	152,093	13,175	165,269
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	65,893	14,991	15,499	20,486	116,870	155,660	272,531

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△522,948千円は、全社費用であります。  
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
  - (2) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産7,116,417千円であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社での余裕運用資金（現金、預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。
  - (3) 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産の減価償却費であります。
  - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産分であります。
- 2 セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報  
製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。
2. 地域ごとの情報
  - (1) 売上高

（単位：千円）

日本	アジア		その他	合計
	中国	その他		
9,689,184	6,688,713	181,021	8,006	16,566,926

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

- (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Fuji Xerox of Shenzhen Ltd.	4,360,570	PWB A部門

当連結会計年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア		その他	合計
	中国	その他		
9,352,266	4,815,554	116,230	23,496	14,307,548

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Fuji Xerox of Shenzhen Ltd.	2,833,392	PWB A部門

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）
1株当たり純資産額	1,749円95銭	1,938円99銭
1株当たり当期純利益金額	182円14銭	191円55銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	潜在株式が存在しないため 記載しておりません。	潜在株式が存在しないため 記載しておりません。

（注）1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

	前連結会計年度 （自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）
親会社株主に帰属する当期純利益	1,073,281千円	1,128,740千円
普通株主に帰属しない金額	－ 千円	－ 千円
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益	1,073,281千円	1,128,740千円
普通株式の期中平均株式数	5,892千株	5,892千株

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
日本フェンオール㈱	第15回 無担保社債	平成26年 3月10日	52,500 (52,500)	—	0.39	無担保	平成29年 3月10日
日本フェンオール㈱	第16回 無担保変動利付社債	平成27年 9月30日	300,000 (300,000)	—	6ヶ月円 TIBOR	無担保	平成29年 9月29日
日本フェンオール㈱	第17回 無担保社債	平成28年 11月25日	100,000 (32,000)	68,000 (32,000)	0.09	無担保	平成31年 11月25日
日本フェンオール㈱	第18回 無担保変動利付社債	平成29年 9月29日	—	300,000	6ヶ月円 TIBOR	無担保	平成32年 9月30日
合計			452,500 (384,500)	368,000 (32,000)			

(注) 1 ( ) 内書は、1年以内の償還予定額であります。

2 連結決算日後5年以内における1年ごとの償還予定額は次のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
32,000	36,000	300,000	—	—

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	228,139	267,800	1.27	—
1年以内に返済予定の長期借入金	100,000	100,000	1.38	—
1年以内に返済予定のリース債務	13,282	10,519	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	300,000	300,000	0.49	平成31年～32年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	17,822	6,844	—	平成31年～33年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	659,243	685,163	—	—

(注) 1 平均利率については、期末借入金等残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	200,000	100,000	—	—
リース債務	4,415	2,051	376	—

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

## (2) 【その他】

## 当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	3,826,019	7,215,075	10,434,517	14,307,548
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	469,724	792,557	1,013,251	1,596,030
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(千円)	340,156	561,048	713,551	1,128,740
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	57.72	95.21	121.09	191.55

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	57.72	37.49	25.88	70.46

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,150,074	3,738,572
受取手形	※1 649,344	※1 534,930
電子記録債権	※1 798,648	※1 1,147,102
売掛金	756,664	761,127
完成工事未収入金	883,683	904,010
製品	164,228	115,270
仕掛品	170,266	229,837
原材料	983,464	1,031,794
未成工事支出金	496,484	597,354
前払費用	43,474	42,374
繰延税金資産	18,900	17,323
関係会社未収入金	21,388	15,099
その他	12,628	2,377
貸倒引当金	△5,317	△3,899
流動資産合計	8,143,933	9,133,276
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,890,749	1,920,288
減価償却累計額	△1,332,738	△1,371,629
建物（純額）	558,011	548,659
構築物	148,698	148,698
減価償却累計額	△107,878	△112,759
構築物（純額）	40,819	35,939
機械装置及び運搬具	995,977	1,013,895
減価償却累計額	△781,165	△828,380
機械装置及び運搬具（純額）	214,811	185,515
工具、器具及び備品	926,712	922,595
減価償却累計額	△872,720	△863,073
工具、器具及び備品（純額）	53,992	59,522
土地	354,124	354,124
リース資産	20,874	20,874
減価償却累計額	△9,198	△13,373
リース資産（純額）	11,675	7,500
建設仮勘定	19,149	24,010
有形固定資産合計	1,252,583	1,215,271

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
<b>無形固定資産</b>		
借地権	622	622
ソフトウェア	22,393	37,642
ソフトウェア仮勘定	—	122,496
リース資産	16,304	7,957
電話加入権	5,242	5,242
その他	1,157	987
無形固定資産合計	45,720	174,949
<b>投資その他の資産</b>		
長期預金	500,000	500,000
投資有価証券	2,033,420	2,686,849
関係会社株式	63,982	63,982
従業員に対する長期貸付金	—	3,235
破産更生債権等	10,278	8,228
長期前払費用	80,746	30,757
敷金及び保証金	83,007	82,980
会員権	48,600	48,600
貸倒引当金	△25,867	△24,287
投資その他の資産合計	2,794,167	3,400,346
固定資産合計	4,092,472	4,790,567
資産合計	12,236,406	13,923,843
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	※1 294,688	※1 506,564
買掛金	1,077,217	1,296,505
工事未払金	550,677	530,185
短期借入金	100,000	200,000
1年内償還予定の社債	384,500	32,000
1年内返済予定の長期借入金	100,000	100,000
リース債務	13,282	10,519
未払金	54,936	140,493
未払法人税等	192,000	250,000
未払消費税等	113,950	102,175
未払費用	76,432	68,503
前受金	7,384	23,378
未成工事受入金	223,637	223,731
預り金	32,088	24,959
その他	5,469	5,932
流動負債合計	3,226,265	3,514,948

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
<b>固定負債</b>		
社債	68,000	336,000
長期借入金	300,000	300,000
リース債務	16,529	6,010
退職給付引当金	313,529	281,409
役員退職慰労引当金	85,141	67,787
資産除去債務	23,852	23,852
繰延税金負債	261,794	416,770
固定負債合計	1,068,848	1,431,830
<b>負債合計</b>	<b>4,295,114</b>	<b>4,946,778</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	996,600	996,600
資本剰余金		
資本準備金	1,460,517	1,460,517
資本剰余金合計	1,460,517	1,460,517
利益剰余金		
利益準備金	103,589	103,589
その他利益剰余金		
別途積立金	1,677,055	1,677,055
繰越利益剰余金	2,876,878	3,584,105
利益剰余金合計	4,657,523	5,364,750
自己株式	△212	△289
株主資本合計	7,114,428	7,821,577
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	826,863	1,155,486
評価・換算差額等合計	826,863	1,155,486
純資産合計	7,941,291	8,977,064
<b>負債純資産合計</b>	<b>12,236,406</b>	<b>13,923,843</b>



## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
売上高		
製品売上高	5,179,401	5,002,785
完成工事高	※1 4,909,394	※1 4,632,597
売上高合計	10,088,795	9,635,382
売上原価		
製品売上原価	4,062,754	3,844,608
完成工事原価	3,179,693	2,807,464
売上原価合計	7,242,447	6,652,073
売上総利益	2,846,347	2,983,308
販売費及び一般管理費	※3 1,820,653	※3 1,830,990
営業利益	1,025,693	1,152,318
営業外収益		
受取利息	1,040	896
有価証券利息	38	217
受取配当金	※2 151,429	※2 157,680
受取保険金	—	9,600
保険配当金	14,575	3,999
保険解約返戻金	904	13,592
立退料収入	18,408	—
為替差益	—	1,601
その他	3,073	2,605
営業外収益合計	189,470	190,192
営業外費用		
支払利息	10,205	7,628
社債利息	904	438
社債発行費	1,409	3,474
社債保証料	1,715	1,518
為替差損	5,225	—
その他	1,847	183
営業外費用合計	21,307	13,243
経常利益	1,193,856	1,329,267
特別利益		
投資有価証券売却益	—	160,280
特別利益合計	—	160,280
特別損失		
特別退職金	—	40,693
特別損失合計	—	40,693
税引前当期純利益	1,193,856	1,448,853
法人税、住民税及び事業税	414,780	423,687
法人税等調整額	29,247	11,517
法人税等合計	444,027	435,205
当期純利益	749,828	1,013,648

## (イ) 【売上原価明細書】

## (a) 売上原価明細書

		前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (千円)	金額 (千円)
期首製品たな卸高		157,985	164,228
当期製品製造原価		4,216,159	3,993,715
計		4,374,144	4,157,943
他勘定へ振替高	※1	147,162	198,064
期末製品たな卸高		164,228	115,270
当期製品売上原価		4,062,754	3,844,608

## (脚注)

前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
※1 他勘定へ振替高は次のとおりであります。 販売費及び一般管理費への振替高 16,639千円 その他 130,522千円 <u>計</u> 147,162千円	※1 他勘定へ振替高は次のとおりであります。 販売費及び一般管理費への振替高 21,154千円 その他 176,910千円 <u>計</u> 198,064千円

## (b) 完成工事原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)		当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 材料費		1,022,964	35.2	1,036,225	37.9
II 労務費		71,480	2.4	83,068	3.0
III 外注費		1,728,588	59.5	1,542,418	56.3
IV 経費		83,274	2.9	76,466	2.8
当期工事費用合計		2,906,308	100.0	2,738,178	100.0
期首未成工事支出金 繰越高		662,862		496,484	
他勘定より受入高	※1	130,532		176,910	
計		3,699,703		3,411,573	
他勘定へ振替高	※2	23,524		6,754	
期末未成工事支出金 繰越高		496,484		597,354	
当期完成工事原価		3,179,693		2,807,464	

## (脚注)

前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
1 原価計算の方法 原価計算の方法は、実際原価による個別原価計算であります。	1 原価計算の方法 同左
2 ※1 他勘定より受入高は次のとおりであります。 製品より受入高 130,532千円	2 ※1 他勘定より受入高は次のとおりであります。 製品より受入高 176,910千円
※2 他勘定へ振替高は次のとおりであります。 販売費及び一般管理費への 振替高 23,524千円	※2 他勘定へ振替高は次のとおりであります。 販売費及び一般管理費への 振替高 6,754千円

## (ロ) 【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)		当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)		
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	
I 材料費	※1	3,166,411	75.2	3,190,199	77.6	
II 労務費		671,893	16.0	564,984	13.8	
III 外注加工費		100,569	2.4	107,685	2.6	
IV 経費		269,065	6.4	247,462	6.0	
当期総製造費用		4,207,939	100.0	4,110,332	100.0	
期首仕掛品棚卸高		230,235		170,266		
計		4,438,175		4,280,598		
他勘定へ振替高		※2	51,749		57,045	
期末仕掛品棚卸高			170,266		229,837	
当期製品製造原価			4,216,159		3,993,715	

## (脚注)

前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)												
<p>1 原価計算の方法 原価計算の方法は、予定単価に基づく実際個別原価計算(ロット別)であり、原価差額は期末に調整を行っております。</p> <p>2 ※1 減価償却費117,165千円を含んでおります。 ※2 他勘定へ振替高は次のとおりであります。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>販売費及び一般管理費への振替高</td> <td style="text-align: right;">51,263千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">485千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">51,749千円</td> </tr> </table>	販売費及び一般管理費への振替高	51,263千円	その他	485千円	計	51,749千円	<p>1 原価計算の方法 同左</p> <p>2 ※1 減価償却費115,836千円を含んでおります。 ※2 他勘定へ振替高は次のとおりであります。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>販売費及び一般管理費への振替高</td> <td style="text-align: right;">54,640千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">2,404千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">57,045千円</td> </tr> </table>	販売費及び一般管理費への振替高	54,640千円	その他	2,404千円	計	57,045千円
販売費及び一般管理費への振替高	51,263千円												
その他	485千円												
計	51,749千円												
販売費及び一般管理費への振替高	54,640千円												
その他	2,404千円												
計	57,045千円												

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本								自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計			
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	996,600	1,460,517	1,460,517	103,589	1,677,055	2,433,471	4,214,116	△212	6,671,021	
当期変動額										
剰余金の配当						△306,421	△306,421		△306,421	
当期純利益						749,828	749,828		749,828	
自己株式の取得										
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										
当期変動額合計	—	—	—	—	—	443,407	443,407	—	443,407	
当期末残高	996,600	1,460,517	1,460,517	103,589	1,677,055	2,876,878	4,657,523	△212	7,114,428	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	657,328	657,328	7,328,349
当期変動額			
剰余金の配当			△306,421
当期純利益			749,828
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	169,535	169,535	169,535
当期変動額合計	169,535	169,535	612,942
当期末残高	826,863	826,863	7,941,291

当事業年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本								自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金 合計			
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金					
					別途積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	996,600	1,460,517	1,460,517	103,589	1,677,055	2,876,878	4,657,523	△212	7,114,428	
当期変動額										
剰余金の配当						△306,421	△306,421		△306,421	
当期純利益						1,013,648	1,013,648		1,013,648	
自己株式の取得								△76	△76	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										
当期変動額合計	—	—	—	—	—	707,226	707,226	△76	707,149	
当期末残高	996,600	1,460,517	1,460,517	103,589	1,677,055	3,584,105	5,364,750	△289	7,821,577	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	826,863	826,863	7,941,291
当期変動額			
剰余金の配当			△306,421
当期純利益			1,013,648
自己株式の取得			△76
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	328,623	328,623	328,623
当期変動額合計	328,623	328,623	1,035,772
当期末残高	1,155,486	1,155,486	8,977,064

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

#### (2) 関係会社株式

総平均法による原価法

#### (3) その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等に基づく時価法

但し、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算出  
時価のないもの

総平均法による原価法

### 2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 製品・原材料

総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

#### (2) 仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

#### (3) 未成工事支出金

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

### 3 デリバティブ

為替予約・・・時価法

### 4 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

但し、平成10年4月1日以降取得の建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降取得の建物  
附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年～38年

機械装置及び運搬具・・・・・・・・ 4年～12年

工具、器具及び備品・・・・・・・・ 2年～20年

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によって  
おります。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### 5 繰延資産の処理方法

社債発行費

支払時全額費用処理

### 6 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の  
債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末未引渡工事のうち損失の発生が見込まれ、か  
つ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当事業年度末における要支給額を計上しております。

7 収益及び費用の計上基準

完成工事高の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)、その他の工事については工事完成基準によっております。

8 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理の要件を満たしており、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金

(3) ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしておりますので、有効性の評価を省略しております。

9 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、独立掲記していた「車両運搬具」は金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「有形固定資産」の「機械装置及び運搬具」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「有形固定資産」の「車両運搬具」347千円（純額）、「機械及び装置」214,463千円（純額）は、「有形固定資産」の「機械装置及び運搬具」214,811千円（純額）として組み替えております。

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「社債保証料」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた3,563千円は、「社債保証料」1,715千円、「その他」1,847千円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当事業年度から適用しております。



(貸借対照表関係)

※1 期末日満期手形及び電子記録債権

期末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理をしております。なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形及び電子記録債権が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
受取手形	60,948千円	40,303千円
電子記録債権	148,797千円	7,212千円
支払手形	74,910千円	71,985千円

2 保証債務

次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
FENWAL CONTROLS OF JAPAN (H. K.), LIMITED (日本芬翁(香港)有限公司)	128,139千円 (US\$ 1,100千)	67,800千円 (US\$ 600千)

(損益計算書関係)

※1 完成工事高のうち、工事進行基準による完成工事高は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
	1,050,548千円	903,268千円

※2 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれています。

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
関係会社からの受取配当金	115,040千円	109,110千円

※3 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度41.0%、当事業年度41.1%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年59.0%、当事業年度58.9%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
給与手当	617,278千円	582,112千円
賞与	271,135千円	231,806千円
役員退職慰労引当金繰入額	15,362千円	8,558千円
退職給付費用	35,719千円	45,440千円
減価償却費	42,360千円	44,098千円
貸倒引当金繰入額	4,513千円	△3,003千円

(有価証券関係)

子会社株式（前事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式 63,982千円、当事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式 63,982千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
繰延税金資産（流動）		
未払事業税	16,571千円	14,349千円
貸倒引当金繰入超過額	1,640千円	1,204千円
たな卸資産除却損	－千円	1,081千円
その他	687千円	687千円
繰延税金資産（流動）の合計	18,900千円	17,323千円
繰延税金資産（固定）		
退職給付引当金	96,002千円	86,167千円
貸倒引当金繰入超過額	7,920千円	7,435千円
投資有価証券評価損	107,381千円	94,439千円
会員権評価損	3,651千円	3,651千円
役員退職慰労引当金	26,070千円	20,756千円
資産除去債務	7,303千円	7,303千円
その他	39千円	30千円
繰延税金資産（固定）の小計	248,370千円	219,784千円
評価性引当額	△145,239千円	△126,595千円
繰延税金資産（固定）の合計	103,131千円	93,189千円
繰延税金負債（固定）との相殺額	△103,131千円	△93,189千円
繰延税金資産（固定）の純額	－千円	－千円
繰延税金負債（固定）		
その他有価証券評価差額金	364,925千円	509,959千円
繰延税金負債（固定）の合計	364,925千円	509,959千円
繰延税金資産（固定）との相殺額	△103,131千円	△93,189千円
繰延税金負債（固定）の純額	261,794千円	416,770千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
法定実効税率	33.10%	30.86%
(調整)		
繰延税金資産評価性引当額	0.06%	△1.30%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.15%	0.09%
住民税均等割	1.07%	0.79%
試験研究費の税額控除	△2.63%	△1.29%
受取配当金	△0.20%	△0.21%
子会社からの受取配当金	△3.30%	△2.32%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.56%	－%
海外子会社合算課税の調整項目	7.95%	3.25%
その他	0.43%	0.17%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.19%	30.04%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,890,749	31,347	1,808	1,920,288	1,371,629	40,699	548,659
構築物	148,698	—	—	148,698	112,759	4,880	35,939
機械装置及び運搬具	995,977	35,582	17,664	1,013,895	828,380	64,878	185,515
工具、器具及び備品	926,712	31,895	36,013	922,595	863,073	26,366	59,522
土地	354,124	—	—	354,124	—	—	354,124
リース資産	20,874	—	—	20,874	13,373	4,174	7,500
建設仮勘定	19,149	24,010	19,149	24,010	—	—	24,010
有形固定資産計	4,356,285	122,836	74,635	4,404,487	3,189,215	140,999	1,215,271
無形固定資産							
借地権	622	—	—	622	—	—	622
商標権	1,792	—	—	1,792	1,792	—	—
ソフトウェア	65,787	25,667	1,167	90,287	52,645	10,418	37,642
ソフトウェア仮勘定	—	122,496	—	122,496	—	—	122,496
リース資産	41,737	—	—	41,737	33,779	8,347	7,957
電話加入権	5,242	—	—	5,242	—	—	5,242
その他	2,531	—	—	2,531	1,543	169	987
無形固定資産計	117,713	148,164	1,167	264,710	89,760	18,935	174,949
長期前払費用	80,746	5,726	55,715	30,757	—	—	30,757
繰延資産	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

機械装置及び運搬具	八王子事業所	3Dプリンタ	17,553千円
ソフトウェア	八王子事業所	在庫管理システム	13,420千円
ソフトウェア仮勘定	長野工場	生産管理システム	122,496千円

2. 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

機械装置及び運搬具	八王子事業所	放射線EMI測定機	6,123千円
機械装置及び運搬具	長野工場	超純水製造装置	5,105千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	31,185	3,904	—	6,902	28,186
役員退職慰労引当金	85,141	11,812	25,912	3,254	67,787

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)のうち、5,317千円は洗替によるものであり、1,585千円は債権回収に伴う戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 _____ 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.fenwal.co.jp/">http://www.fenwal.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 単元未満株式については、当社定款に次の権利以外の権利を行使することができないと定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその他添付書類並びに確認書

事業年度(第56期) (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日) 平成29年3月31日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年3月31日関東財務局長に提出

#### (3) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成29年4月3日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4(監査公認会計士等の異動)の規定に基づく臨時報告書

平成30年2月23日関東財務局長に提出

#### (4) 四半期報告書及び確認書

(第57期第1四半期) (自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日) 平成29年5月2日関東財務局長に提出

(第57期第2四半期) (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日) 平成29年8月2日関東財務局長に提出

(第57期第3四半期) (自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日) 平成29年11月2日関東財務局長に提出

#### (5) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

事業年度(第52期) (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日) 平成29年9月8日関東財務局長に提出

事業年度(第53期) (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日) 平成29年9月8日関東財務局長に提出

事業年度(第54期) (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日) 平成29年9月8日関東財務局長に提出

事業年度(第55期) (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日) 平成29年9月8日関東財務局長に提出

事業年度(第56期) (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日) 平成29年9月8日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 3月29日

日本フェンオール株式会社

取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神代 勲 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 健夫 印

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本フェンオール株式会社の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本フェンオール株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本フェンオール株式会社の平成29年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、日本フェンオール株式会社が平成29年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

当社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- ※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成30年 3月29日

日本フェンオール株式会社

取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神代 勲 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 健夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本フェンオール株式会社の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本フェンオール株式会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。